元総社蒼海遺跡群（44）
元総社蒼海遺跡群（45）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１３．３

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（44）
元総社蒼海遺跡群（45）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１３．３

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（44）　全景（上が東）

元総社蒼海遺跡群（44）Ｗ－１号溝　全景（西から）

元総社蒼海遺跡群（45）　全景（上が北）

元総社蒼海遺跡群（45）Ｗ－１号溝　全景（西から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（44）、（45）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世の堀跡等を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 25 年３月

前橋市教育委員会
教育長　　佐　藤　博　之

例　　言

1　本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（44）、（45）発掘報告書である。

2　発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（44）、（45）
調査場所	前橋市元総社町 1582-3、2108-1、2114、2115-1、2115-2
遺跡コード	24 A 130 － 44､45
発掘・整理担当者	山田誠司（技研測量設計株式会社）
発掘調査期間	平成 24 年 8 月 20 日～平成 24 年 10 月 31 日
整理・報告書作成期間	平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 3 月 22 日

3　本書の原稿執筆はＩを福田貫之（前橋市教育委員会）、他を山田が担当した。本書はデジタル編集・版組により作成しており、編集作業は山田が担当した。

4　発掘調査、及び整理作業参加者は次のとおりである。

宇佐美義春　大川明子（技研測量設計株式会社）

内嶋勝義　上原政男　大澤紀一　大友康之　女屋みどり　木村勝彦　桒原源市　桑原　襄　嶋村みどり

須田ちえ子　立見昭夫　田部井美砂子　都丸ゆき子　野村精一　福島禄子　益子廣治　間庭啓治

5　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

6　下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、竪穴住居跡：H、溝：W、土坑墓：ＤＢ、井戸：Ｉ、土坑：D、ピット：Ｐ、である。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　竪穴住居跡・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60　竈・土坑墓・・・1/30　溝・・・1/100

全体図・・・1/250

遺物　土器・石製品・・・1/3、1/4　鉄・銅製品・・・1/2　古銭・・・1/1

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構　焼土範囲：　灰範囲：　硬化範囲：

遺物　須恵器（還元焔）：　釉薬：　油煙・煤：　石器磨面：

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）

目　　次

巻頭図版１
巻頭図版２
はじめに
例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 2
Ⅲ　調査の方針と経過
　1　調査範囲と基本方針…… 6
　2　調査経過…… 6
Ⅳ　基本層序…… 6
Ⅴ　遺構と遺物
　1　元総社蒼海遺跡群（44）
　　（１）竪穴住居跡…… 9
　　（２）溝…… 9
　　（３）ＤＢ－１号土坑墓…… 10
　　（４）井戸、土坑、ピット…… 10
　2　元総社蒼海遺跡群（45）
　　（１）竪穴住居跡…… 19
　　（２）溝…… 19
　　（３）ＤＢ－１号土坑墓…… 21
　　（４）地下式坑…… 21
　　（５）井戸、土坑、ピット…… 21
Ⅵ　まとめ
　1　元総社蒼海遺跡群（44）…… 32
　2　元総社蒼海遺跡群（45）…… 32

挿図目次

Fig.1　遺跡の位置 …… 1
Fig.2　周辺遺跡図 …… 3
Fig.3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図 …… 5
Fig.4　基本層序 …… 6
Fig.5　元総社蒼海遺跡群（44）全体図 …… 7
Fig.6　元総社蒼海遺跡群（45）全体図 …… 8
Fig.7　元総社蒼海遺跡群（44）Ｈ－１号住居跡 …… 11
Fig.8　元総社蒼海遺跡群（44）Ｈ－２・３号住居跡、Ｗ－１号溝 …… 12
Fig.9　元総社蒼海遺跡群（44）Ｗ－２～４号溝、Ｄ－２・11号土坑 …… 13
Fig.10　元総社蒼海遺跡群（44）Ｗ－５～７号溝、ＤＢ－１号土坑墓、Ｄ－１・３号土坑、土坑群１ …… 14
Fig.11　元総社蒼海遺跡群（44）Ｄ－12～16・18・19・21～23・30号土坑、土坑群１ …… 15
Fig.12　元総社蒼海遺跡群（44）Ｄ－24・25・27～29号土坑、土坑群２、ピット …… 16
Fig.13　元総社蒼海遺跡群（44）ピット、出土遺物 …… 17
Fig.14　元総社蒼海遺跡群（44）出土遺物 …… 18
Fig.15　元総社蒼海遺跡群（45）Ｈ－１号住居跡 …… 21
Fig.16　元総社蒼海遺跡群（45）Ｈ－２号住居跡、Ｗ－１号溝、Ｄ－14～16・19～21号土坑 …… 22
Fig.17　元総社蒼海遺跡群（45）Ｗ－２～10号溝、Ｄ－13号土坑、ＤＢ－１号土坑墓 …… 23
Fig.18　元総社蒼海遺跡群（45）地下式坑、Ｉ－１～４号井戸、Ｄ－１～７・17・18号土坑、Ｐ－96号ピット …… 24
Fig.19　元総社蒼海遺跡群（45）Ｄ－９～12号土坑、ピット …… 25
Fig.20　元総社蒼海遺跡群（45）ピット …… 26
Fig.21　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物 …… 27
Fig.22　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物 …… 28
Fig.23　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物 …… 29
Fig.24　元総社蒼海遺跡群（45）周辺蒼海城想定図 …… 33

表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧表 …… 4
Tab.2　元総社蒼海遺跡群（44）出土遺物観察表 …… 18
Tab.3　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物観察表 …… 29
Tab.4　元総社蒼海遺跡群（44）、（45）土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表 …… 31

写真図版目次

PL.1　（44）Ｈ－１号住居跡・Ｗ－４号溝　全景、（44）Ｈ－１号住居跡　竈全景、（44）Ｈ－１号住居跡　遺物出土状況
（44）Ｈ－２号住居跡　全景、（44）Ｗ－１号溝　全景、（44）Ｗ－１号溝　SPA－A’、（44）Ｗ－２号溝　SPA－A’
PL.2　（44）Ｗ－３号溝・Ｄ－２号土坑　全景、（44）Ｗ－４号溝　全景、（44）Ｗ－５号溝　全景、（44）Ｗ－６号溝　全景
（44）DB－１号土坑墓　全景、（44）DB－１号土坑墓　人骨・古銭検出状況、（44）土坑群１、（44）土坑群２
PL.3　（45）Ｈ－１号住居跡　全景、　（45）Ｈ－１号住居跡　竈全景、（45）Ｈ－１号住居跡　竈周辺遺物検出状況
（45）Ｈ－１号住居跡　貯蔵穴遺物検出状況、（45）Ｈ－２号住居跡　全景、（45）Ｈ－２号住居跡　遺物検出状況、
（45）Ｗ－１号溝　全景、（45）Ｗ－４号溝　全景
PL.4　（45）Ｗ－５号溝　全景、（45）Ｗ－６溝　全景、（45）Ｗ－７号溝　全景、（45）Ｗ－８号溝　全景、（45）Ｗ－９号溝　全景
（45）Ｗ－10号溝　全景、（45）DB－１号土坑墓　全景、（45）地下式坑　SPA－A’
PL.5　（45）Ｉ－３号井戸　全景、（45）Ｄ－１・２号土坑　全景、（45）Ｄ－１号土坑　礫検出状況、（45）Ｄ－３号土坑　全景
（45）Ｄ－３号土坑　遺物検出状況、（45）調査区南側ピット全景、調査風景
PL.6　元総社蒼海遺跡群（44）、（45）遺物写真
PL.7　元総社蒼海遺跡群（45）遺物写真
PL.8　元総社蒼海遺跡群（45）遺物写真

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、14 年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成 24 年 7 月 5 日付けで前橋市長 山本　龍（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成 24 年 8 月 8 日付けで前橋市と民間調査組織である技研測量設計株式会社との間で発掘調査業務契約を締結し調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（44）、（45）」（遺跡コード：24A130-44､45）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（44）、（45）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Fig.1　遺跡の位置

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置（Fig. 1）　本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約 3km の地点、前橋市元総社地内に所在し、西には関越自動車道が南北に、南には国道 17 号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高３～５ｍを測る。遺跡が立地する台地上は主として畑地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にあたる。

歴史的環境（Fig. 2、Tab. 1）　本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東［15］・産業道路西［16］・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡［61］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］・元総社小見Ⅲ遺跡［59］・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡［18］・［19］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］、正観寺遺跡［21］等があるがその分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳［７］、二子山古墳［12］、愛宕山古墳［10］、宝塔山古墳［13］、蛇穴山古墳［８］等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺［２］、国分尼寺［３］、山王廃寺［４］の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

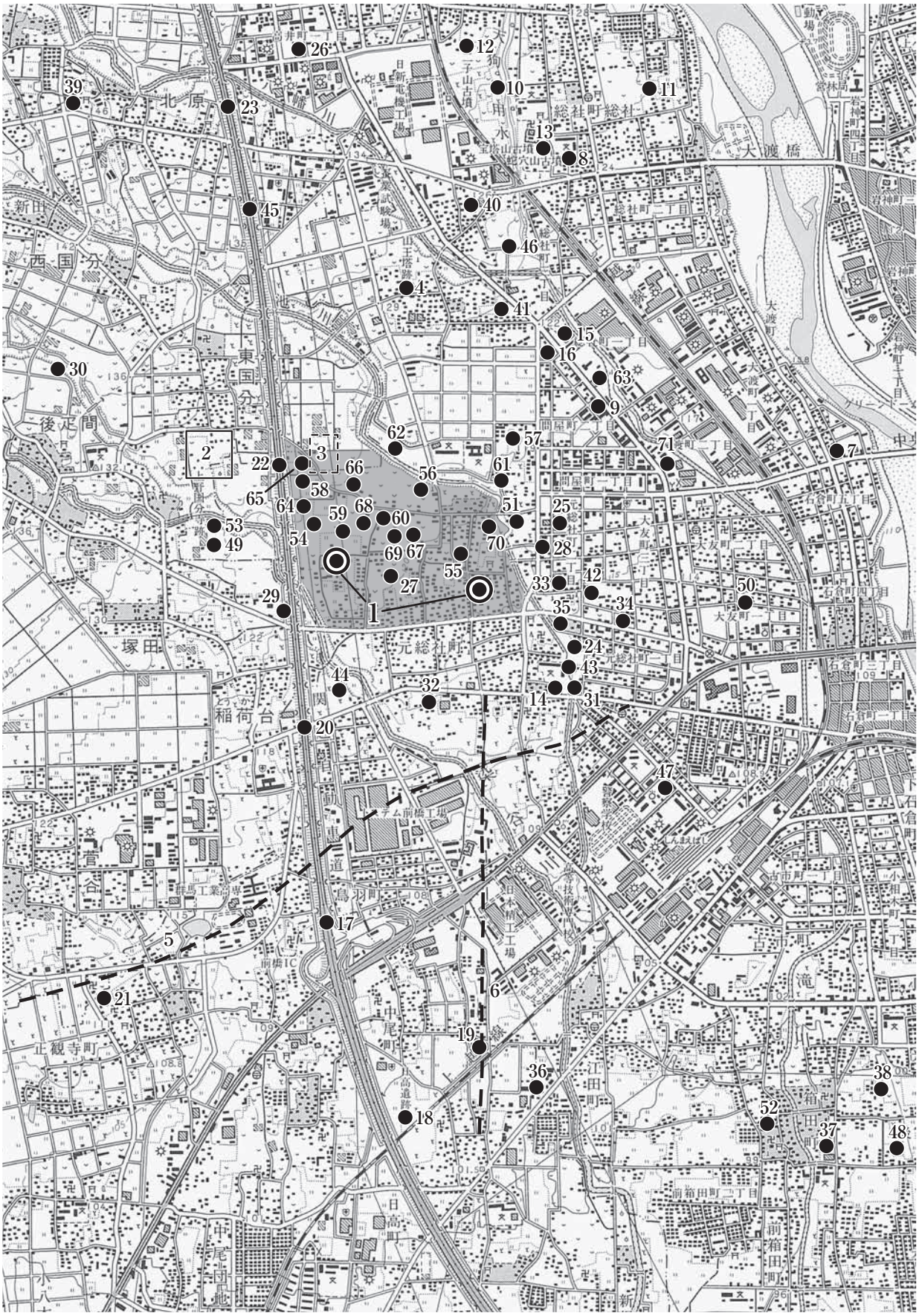
上野国府は本遺跡付近の区域におよそ 900 m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［14］、元総社寺田遺跡［43］、元総社宅地遺跡［55］などがある。また元総社明神遺跡［24］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［25］では東西方向の大溝が確認され、国府域の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和 55 年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度試掘調査、元総社蒼海遺跡群（20）で調査が行われた。調査の結果、南大門想定位置の前面で瓦敷遺構等が確認されている。関連遺跡として中尾遺跡［17］、鳥羽遺跡［20］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］などが挙げられる。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ～ 56 年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成９～ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約 1.5km にはＮ－ 64°－ Ｅ方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡［19］では幅約 4.5 ｍの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。大渡道場遺跡［71］の貨幣埋納遺構では 572 枚に及ぶ銭貨が撚紐を通した「緡」の状態で六緡出土した。



＝元総社蒼海遺跡群

1：25,000

500m　0　500　1000　1500

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（44）、(45)	2012	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山道（推定）	－	
6	日高道（推定）	－	
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（７ｃ末）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７ｃ前半）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５ｃ後半）
12	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６ｃ末）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７ｃ後半）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡	－	縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	(1978)	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
22	上野国分僧寺･尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡(群馬町)	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
25	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柿木遺跡･Ⅱ遺跡	1983、1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
28	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡･Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡･Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
41	昌楽寺廻向遺跡･Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
39	熊野谷Ⅱ･Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	弥勒遺跡･Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
45	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
49	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
51	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
52	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
56	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
51	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
58	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
61	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
62	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡、水田跡・火葬墓
63	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
64	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
65	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
60	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
66	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
67	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
64	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
68	元総社小見Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
68	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
69	元総社小見内Ｘ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
70	総社閑泉明神北Ｖ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（１）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（２）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（３）・元総社小見Ⅶ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（６）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（７）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（８）	2006	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（９）、(10)	2006	縄文：竪穴住居跡、古墳：竪穴住居跡、奈良・平安：竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・竪穴状遺構・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世以降：土壙墓・井戸跡、不明：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・溝跡、中世：土壙墓・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：蒼海城の堀跡・盛土状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：方形竪穴・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南宋～元時代の青白磁梅瓶２個体
－	元総社蒼海遺跡群（27）	2009	古墳：住居跡・焼土遺構、古代：住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構、中世：堀跡・竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（28）	2009	古墳：住居跡・溝跡、古代：住居跡・竪穴状遺構、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳～平安：竪穴住居跡、中近世：掘立柱建物跡・土壙墓・火葬跡・地下式坑・蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：道路状遺構・土壙墓・火葬跡・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（31）	2009	古墳：住居跡、中世：道路状遺構、蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	奈良・平安：住居跡、中近世：堀跡・竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・畿内産土師器、中世：土壙墓・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（36）	2010	古墳：畠跡、平安：住居跡・水田跡・竈構築材採掘坑、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（37）	2011	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝、中世：堀跡
71	大渡道場遺跡	2011	古墳：水田跡、平安：住居跡、中世：貨幣埋納遺構・掘立柱建物跡・地下式坑・土壙墓・火葬墓・火葬跡・溝跡・竪穴状遺構

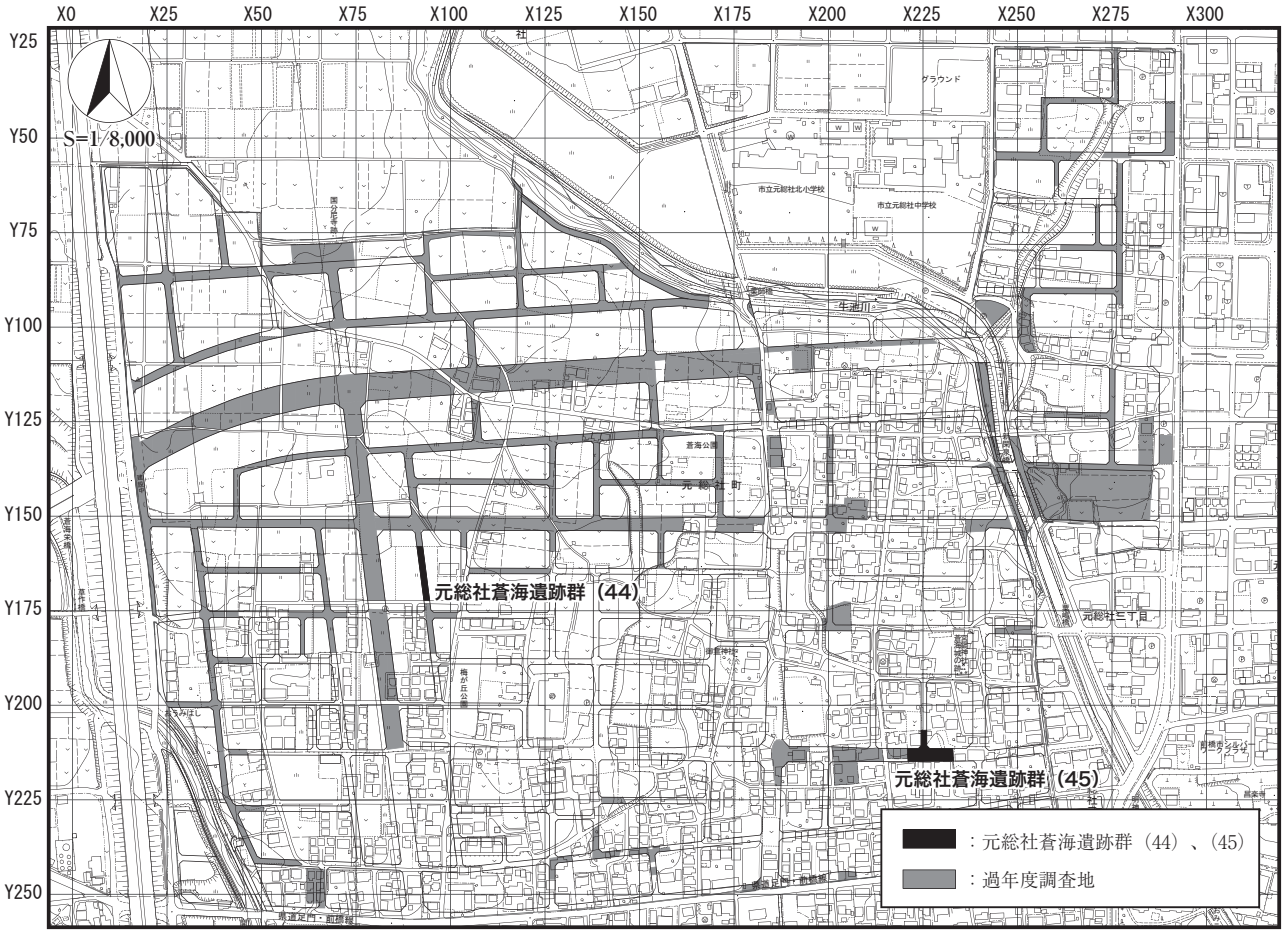


Fig.３　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地であり、調査面積は（44）320 ㎡、（45）660 ㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X = 44000.000、Y = − 72200.000 を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をＸ、緯線をＹとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

	測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
（44）	X 91、 Y 158	X = 43368.000 m、Y = − 71836.000 m	X = 43722.910 m、Y = − 72127.757 m
（45）	X 220、Y 210	X = 43160.000 m、Y = − 71320.000 m	X = 43514.912 m、Y = − 71611.766 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.25・0.45 バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、住居跡の遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものは№遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行なった。記録写真は 35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの３種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施した。

2　調査経過

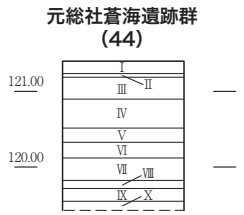
発掘調査は過去の調査歴から、蒼海城に伴う大規模な堀跡が続くと想定される（45）から調査を開始した。平成 24 年８月 20 日より表土掘削を実施し、遺構確認作業を実施した。以降、順次調査を進め、９月 25 日に（45）での全景撮影を行ない、９月 30 日に埋め戻しを完了した。（44）は表土掘削を９月 26 日より開始し、10 月 24 日に全景撮影を行ない、10 月 27 日に埋め戻しを完了した。10 月 31 日までにプレハブ・器材等の搬出を完了し、現地での発掘調査を終了した。

Ⅳ　基本層序

各調査地点において、良好な堆積状況の確認できる場所を基本層序とした。遺構確認面は（44）がⅥ層上面、（45）がⅤ層上面である。なお、後述するが（44）のⅦ・Ⅷ層は粘性が非常に強く、この層を目的に採掘したと思われる土坑群を検出している。

元総社蒼海遺跡群（44）　基本層序

Ⅰ	表土	
Ⅱ	褐色土（10YR4/6）	マンガン質土層。締まりやや弱く、粘性やや弱い。旧耕作土。
Ⅲ	暗褐色土（10YR3/3）	軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
Ⅳ	黒褐色土（10YR3/2）	明黄褐色粘質土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
Ⅴ	黒褐色土（10YR3/2）	軽石を少量含む。締まり強く、粘性やや弱い。Ⅴ層より黒味が強い。
Ⅵ	暗褐色土（10YR3/4）	黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。締まり強く、粘性やや強い。（遺構確認面）
Ⅶ	灰黄褐色土（10YR6/2）	含有物の少ない粘質土層。締まり強く、粘性強い。
Ⅷ	灰黄褐色土（10YR6/2）	黒褐色粘質土を少量含む。締まり強く、粘性やや強い。
Ⅸ	暗褐色土（10YR3/4）	黄褐色粘質土を少量含む。締まり強く、粘性やや強い。
Ⅹ	暗褐色土（10YR3/4）	黄褐色粘質土を中量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。



元総社蒼海遺跡群（45）　基本層序

Ⅰ	表土	
Ⅱ	褐色土（10YR4/4）	にぶい黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
Ⅲ	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
Ⅳ	黒褐色土（10YR2/3）	ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
Ⅴ	褐色土（10YR4/6）	黄褐色ブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。（遺構確認面）

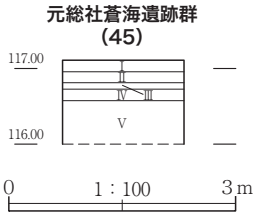


Fig. 4　基本層序

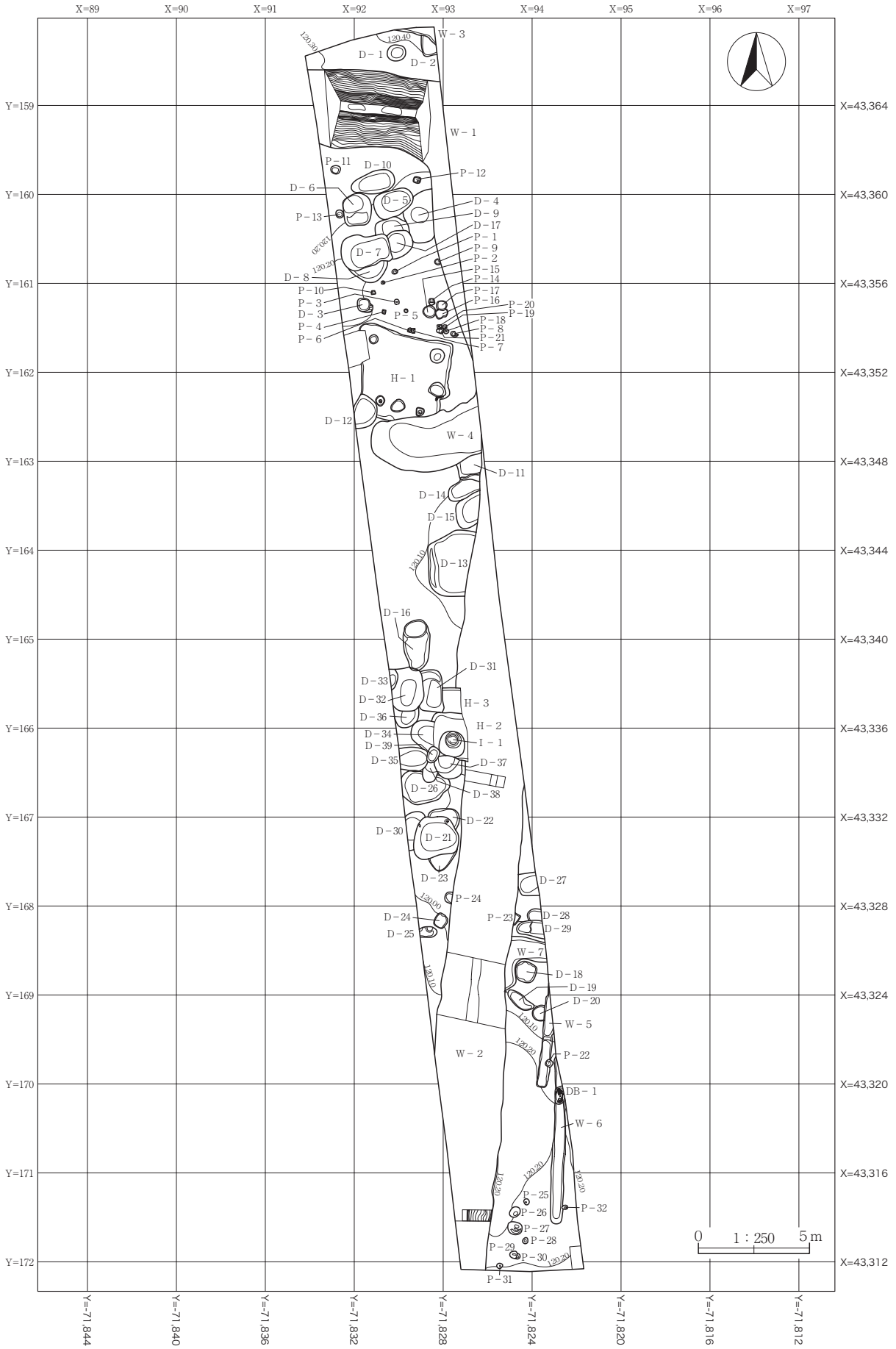


Fig.5　元総社蒼海遺跡群（44）全体図

Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（45）全体図

Ⅴ　遺構と遺物

１　元総社蒼海遺跡群（44）

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. ７・13、PL １）

位置　Ｘ 92、Ｙ 161・162　**主軸方向**　Ｎ－ 89°－Ｅ　**規模**　東西軸 3.95 ｍ、南北軸 3.64 ｍ、現壁高 0.28 ｍ。**面積**　（13.62）㎡　**床面**　ほぼ平坦で暗褐色・黄褐色土による貼り床、部分的に地山硬化床となる。竈周辺の硬化が顕著。　**竈**　東壁に位置する。確認長 0.96 ｍ、燃焼部幅 0.63 ｍを測る。袖石が残存する。　**重複**　Ｗ－４、Ｄ－12と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－４、Ｄ－12である。　**出土遺物**　須恵器蓋（１）、須恵器坏（２、３）、土師器台付甕（４）、鉄製品（５）を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半～10世紀前半と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. ８・13、PL １）

位置　Ｘ 92･93、Ｙ 165･166　**主軸方向**　Ｎ－ 88°－Ｅ　**規模**　東西軸（0.86）ｍ、南北軸（1.18）ｍ、現壁高 0.38 ｍ。**面積**　（3.44）㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床。　**重複**　Ｈ－３、Ｗ－２、Ｉ－１、Ｄ－ 34・37・39 と重複し、新旧関係はＨ－３、Ｉ－１、Ｄ－ 34･37･39、Ｉ－１→本遺構である。　**出土遺物**　土師器坏（１）を１点を図示。**時期**　出土遺物の傾向から８世紀中頃から後半と想定される。　**備考**　平面形態と平坦な床面をもつため住居として扱っているが、周辺の土坑群の一部である可能性も考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig. ８）

位置　Ｘ 93、Ｙ 165　**主軸方向**　Ｎ－ 90°－Ｅ　**規模**　東西軸（0.42）ｍ、南北軸（0.56）ｍ、現壁高 0.16 ｍ。**面積**　（1.02）㎡　ほぼ平坦な地山硬化床。　**重複**　Ｈ－２、Ｄ－ 31 と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－２、Ｄ－ 31 である。　**出土遺物**　須恵器甕が１点出土しているが、小破片のため図示できず。　**時期**　周辺遺構との重複関係から８世紀代と想定される。　**備考**　Ｈ－２号住居跡と同様に、周辺の土坑群の一部である可能性も考えられる。

（２）溝

Ｗ－１号溝（Fig. ８、PL １）

位置　Ｘ 91 ～ 93、Ｙ 158 ～ 161　**主軸方向**　南北方向Ｎ－６°－Ｗ、東西方向Ｎ－ 94°－Ｅ　**規模**　長さ（14.65）ｍ、上幅 3.42 ｍ、下幅 0.43 ｍ、深さ 2.53 ｍ。　**形状等**　北東から南西に走行し、調査区北西側でＬ字に折れ、調査区外へ続く。断面はＶ字形に近い台形状を呈し、底面はやや平坦である。　**重複**　Ｄ－４と重複し、新旧関係はＤ－４→本遺構である。　**出土遺物**　瓦、須恵器、土師器、陶磁器類等が出土しているが、小破片のため図示には至らず。　**時期**　規模・形状等から蒼海城に関連する施設の可能性が考えられ、15 世紀代と想定される。

Ｗ－２号溝（Fig. ９・13、PL １）

位置　Ｘ 93、Ｙ 162 ～ 172　**主軸方向**　Ｎ－３°－Ｅ　**規模**　長さ（37.42）ｍ、上幅 2.68 ｍ、下幅 0.31 ｍ、深さ 1.92 ｍ。　**形状等**　北東から南西に走行し、断面は緩やかなＶ字形を呈する。　**重複**　Ｈ－２・３、Ｗ－４・７、Ｄ－ 11・13 ～ 14・27 と重複し、いずれの遺構よりも後出する。　**出土遺物**　かわらけ（１）、紡錘車（２）の２点を図示している。紡錘車については、破損した須恵器を転用したものである。　**時期**　Ｗ－１号溝と同様に、15 世紀代と想定される。

Ｗ－３号溝（Fig. ９　、PL ２）

位置　Ｘ 92、Ｙ 158　**主軸方向**　Ｎ－ 99°－Ｅ　**規模**　長さ（1.87）ｍ、上幅 0.83 ｍ、下幅 0.71 ｍ、深さ 0.30 ｍ。**形状等**　北東から南西に走行し、断面は台字形を呈する。　**重複**　Ｄ－２と重複し、新旧関係はＤ－２→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器、土師器が数点出土しているが、小破片のため図示には至らず。　**時期**　出土遺物がなく判然としないが、形状・堆積状況等から近世と想定される。

W－４号溝（Fig. 9、PL ２）

位置　X 92・93、Y 162　**主軸方向**　南北方向N－76°－E　**規模**　長さ（4.96）m、上幅 2.36 m、下幅 1.84 m、深さ 0.40 m。　**形状等**　南西から北東に走行し、調査区東へ続く。断面は台字形を呈する。　**重複**　H－１、W－２、D－11 と重複し、新旧関係はH－１、D－11→本遺構→W－２である。　**出土遺物**　須恵器、土師器が出土しているが小破片のため図示には至らず。　**時期**　重複関係から中世と想定される。

W－５号溝（Fig.10、PL ２）

位置　X 94、Y 169　**主軸方向**　N－５°－E　**規模**　長さ（4.69）m、上幅 0.46 m、下幅 0.24 m、深さ 0.19 m。**形状等**　ほぼ南北方向に走行し、断面は台形を呈する。　**重複**　D－20、P－22 と重複し、新旧関係はD－20→本遺構→P－22 である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　出土遺物がなく判然としないが、形状・堆積状況等から近世と想定される。

W－６号溝（Fig.10、PL ２）

位置　X 93・94、Y 169～171　**主軸方向**　N－２°－E　**規模**　長さ（7.54）m、上幅 0.45 m、下幅 0.31 m、深さ 0.16 m。　**形状等**　ほぼ南北方向に走行し、断面は台形を呈する。北西を走行するW－５号溝と類似する。**重複**　DB－１、P 32 と重複し、新旧関係は本遺構→DB－１・P 32 である。　**出土遺物**　土師器が１点出土しているが、小破片のため図示には至らず。　**時期**　出土遺物がなく判然としないが、重複関係等から近世と想定される。

W－７号溝（Fig.10、PL ２）

位置　X 94、Y 168　**主軸方向**　N－４°－W　**規模**　長さ（3.31）m、上幅 0.82 m、下幅 0.49 m、深さ 0.13 m。**形状等**　ほぼ東西方向に走行しW－２号溝東側でL字折れる。断面は底面が不整形な台形を呈する。　**重複**　W－２と重複し、新旧関係は本遺構→W－２である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　出土遺物がなく判然としないが、重複関係等から近世と想定される

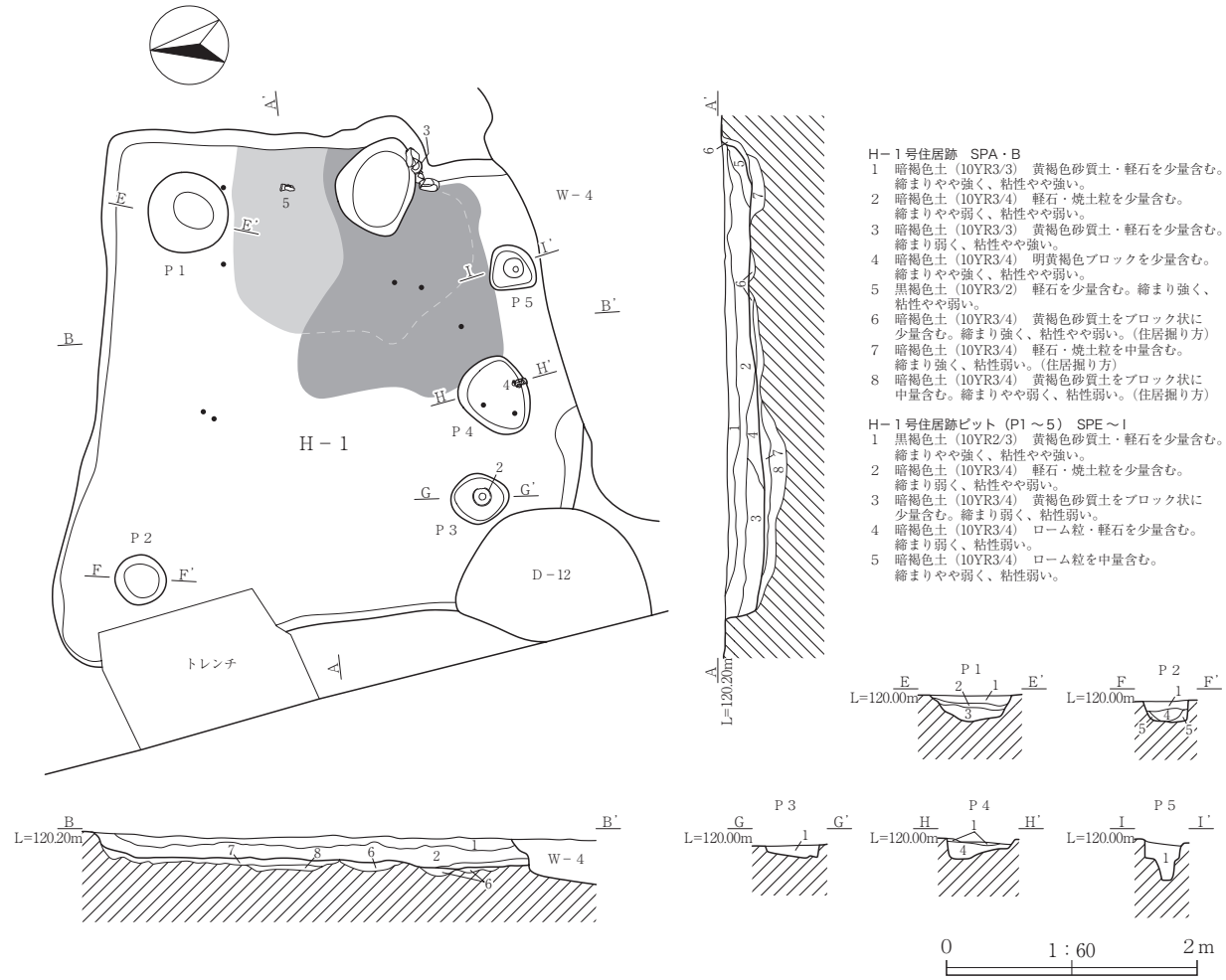
（３）DB－１号土坑墓（Fig.10、PL ２）

位置　X 94、Y 170　**主軸方向**　N－２°－E　**規模**　長軸 0.81 m、短軸（0.42）m、深さ 0.12 m。　**形状等**　平面楕円形を呈する。　**人骨出土状態**　残存状態は比較的良好で、頭部は欠くものの肋骨から骨盤にかけて残存する。出土状況から北頭位と考えられる。　**重複**　W－６と重複し、新旧関係はW－６→本遺構である。　**出土遺物**　覆土中より古銭（銭種は判読不明）１点を確認した。出土位置は頭位側と想定される。　**時期**　形状、重複関係から近世と考えられる。

（４）井戸、土坑、ピット（Fig.10～12、PL ２）

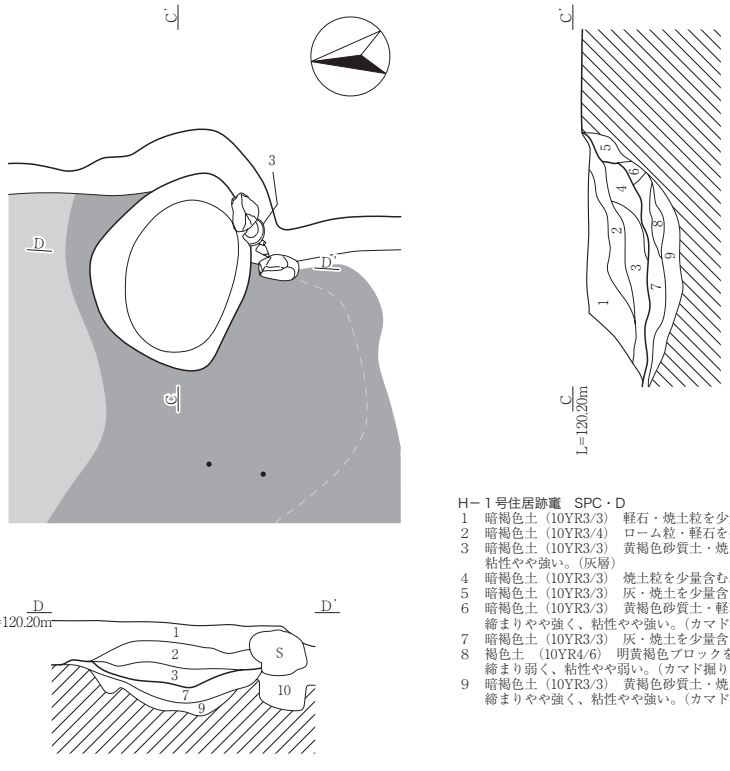
今回の発掘調査では井戸１基、土坑 39 基、ピット 32 基を確認している。特に土坑は、大きく２箇所での纏まりを見て取れる。検出状況等から、基本層序のⅦ層の灰黄褐色粘質土を目的とした採掘坑の可能性も指摘されるものであり、周辺の遺跡でも類例が確認されている。各計測値については「Tab. 4　元総社蒼海遺跡群（44）、（45）土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

H－1



H－1号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　軽石・焼土粒を少量含む。
　締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。
　締まり弱く、粘性やや強い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　明黄褐色ブロックを少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや弱い。
5　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まり強く、
　粘性やや弱い。
6　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土をブロック状に
　少量含む。締まり強く、粘性やや弱い。（住居掘り方）
7　暗褐色土（10YR3/4）　軽石・焼土粒を中量含む。
　締まり強く、粘性弱い。（住居掘り方）
8　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土をブロック状に
　中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（住居掘り方）

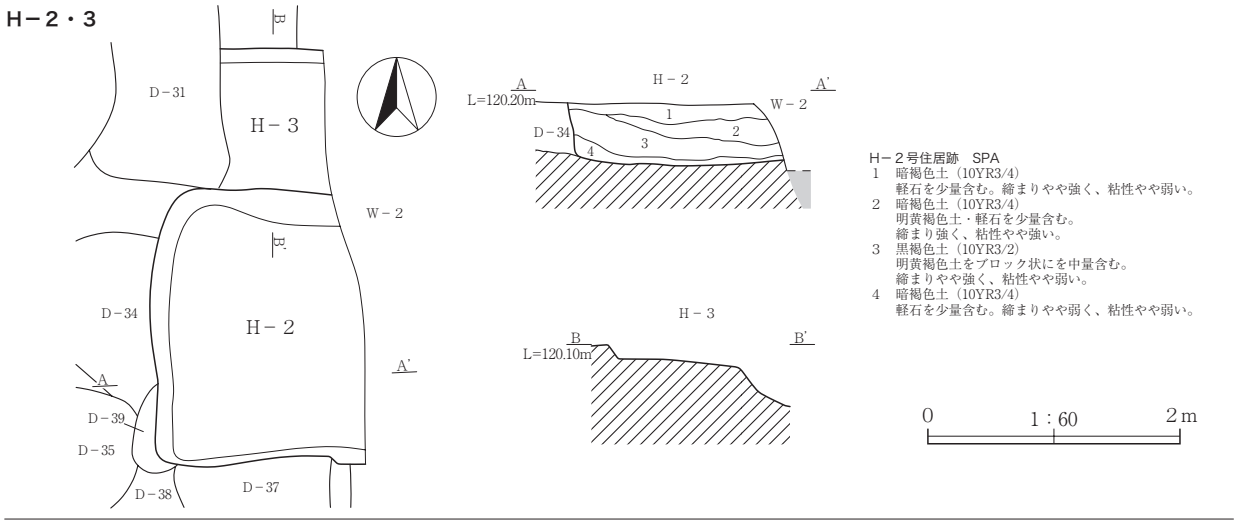
H－1号住居跡ピット（P1～5）　SPE～I
1　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　軽石・焼土粒を少量含む。
　締まり弱く、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土をブロック状に
　少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。
　締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を中量含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。



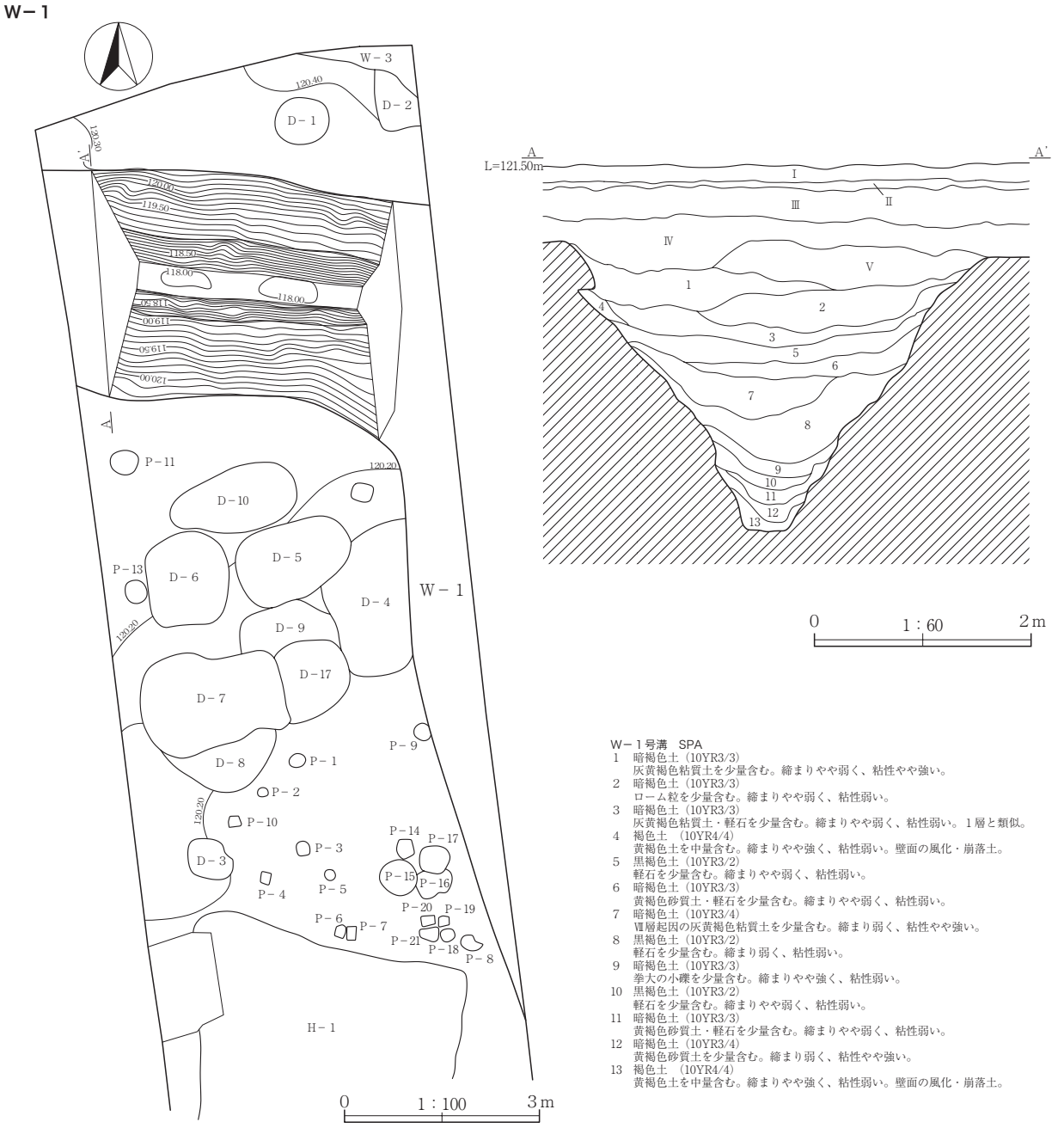
H－1号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　軽石・焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・焼土粒を中量含む。締まりやや強く、
　粘性やや強い。（灰層）
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　灰・焼土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（カマド掘り方）
6　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。（カマド掘り方）
7　暗褐色土（10YR3/3）　灰・焼土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（カマド掘り方）
8　褐色土　（10YR4/6）　明黄褐色ブロックを少量含む。
　締まり弱く、粘性やや弱い。（カマド掘り方）
9　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・焼土粒を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。（カマド掘り方）

0　1：30　1m

Fig.7　元総社蒼海遺跡群（44）H－1号住居跡



H－２号住居跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）
軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
明黄褐色土・軽石を少量含む。
締まり強く、粘性やや強い。
3　黒褐色土（10YR3/2）
明黄褐色土をブロック状にを中量含む。
締まりやや強く、粘性やや弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。



W－１号溝　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
灰黄褐色粘質土を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
灰黄褐色粘質土・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。１層と類似。
4　褐色土　（10YR4/4）
黄褐色土を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。壁面の風化・崩落土。
5　黒褐色土（10YR3/2）
軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/3）
黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）
Ⅶ層起因の灰黄褐色粘質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
8　黒褐色土（10YR3/2）
軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
9　暗褐色土（10YR3/3）
拳大の小礫を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
10　黒褐色土（10YR3/2）
軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
11　暗褐色土（10YR3/3）
黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
12　暗褐色土（10YR3/4）
黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
13　褐色土　（10YR4/4）
黄褐色土を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。壁面の風化・崩落土。

Fig.８　元総社蒼海遺跡群（44）Ｈ－２・３号住居跡、Ｗ－１号溝

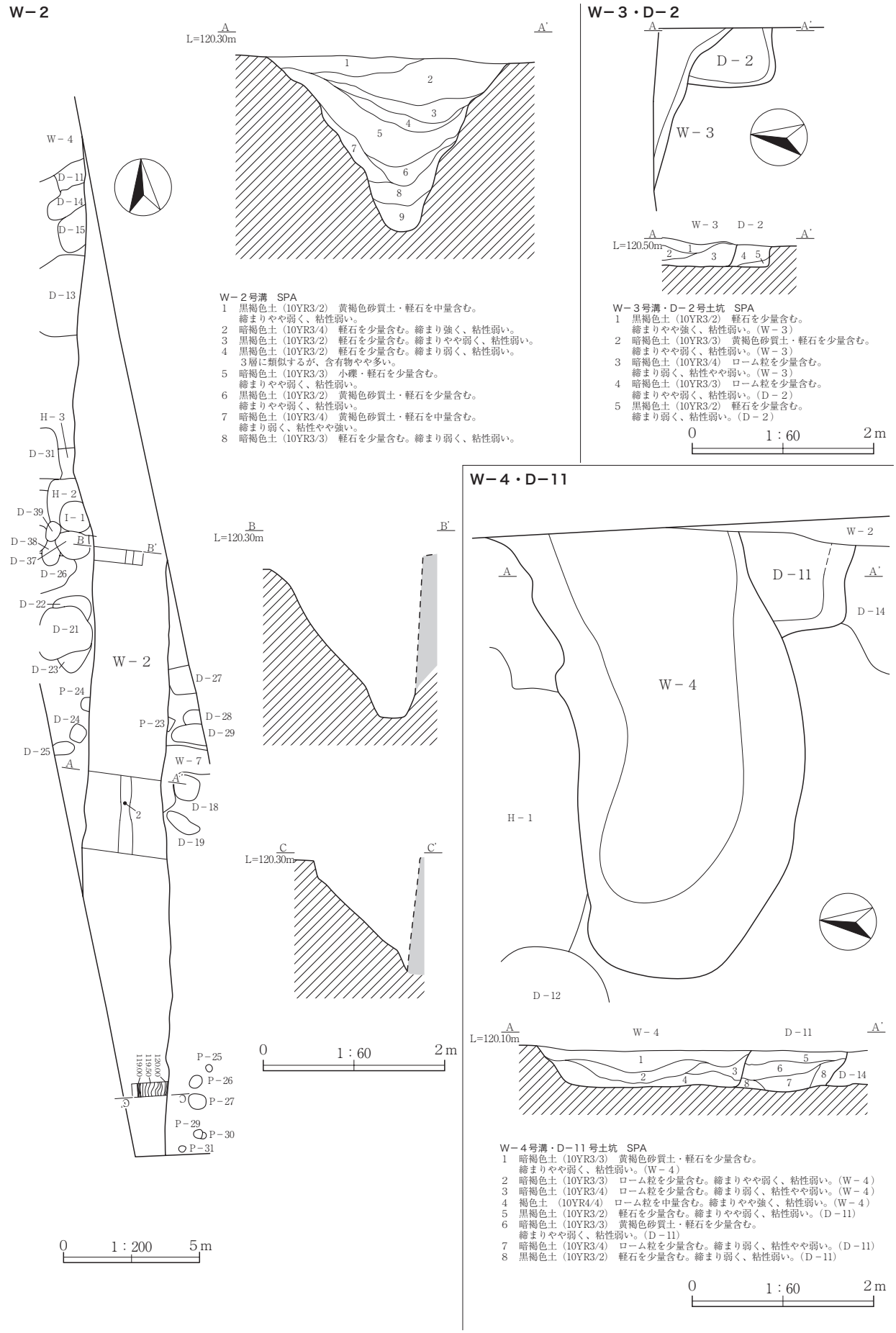


Fig.9　元総社蒼海遺跡群（44）W－２～４号溝、D－２・11号土坑

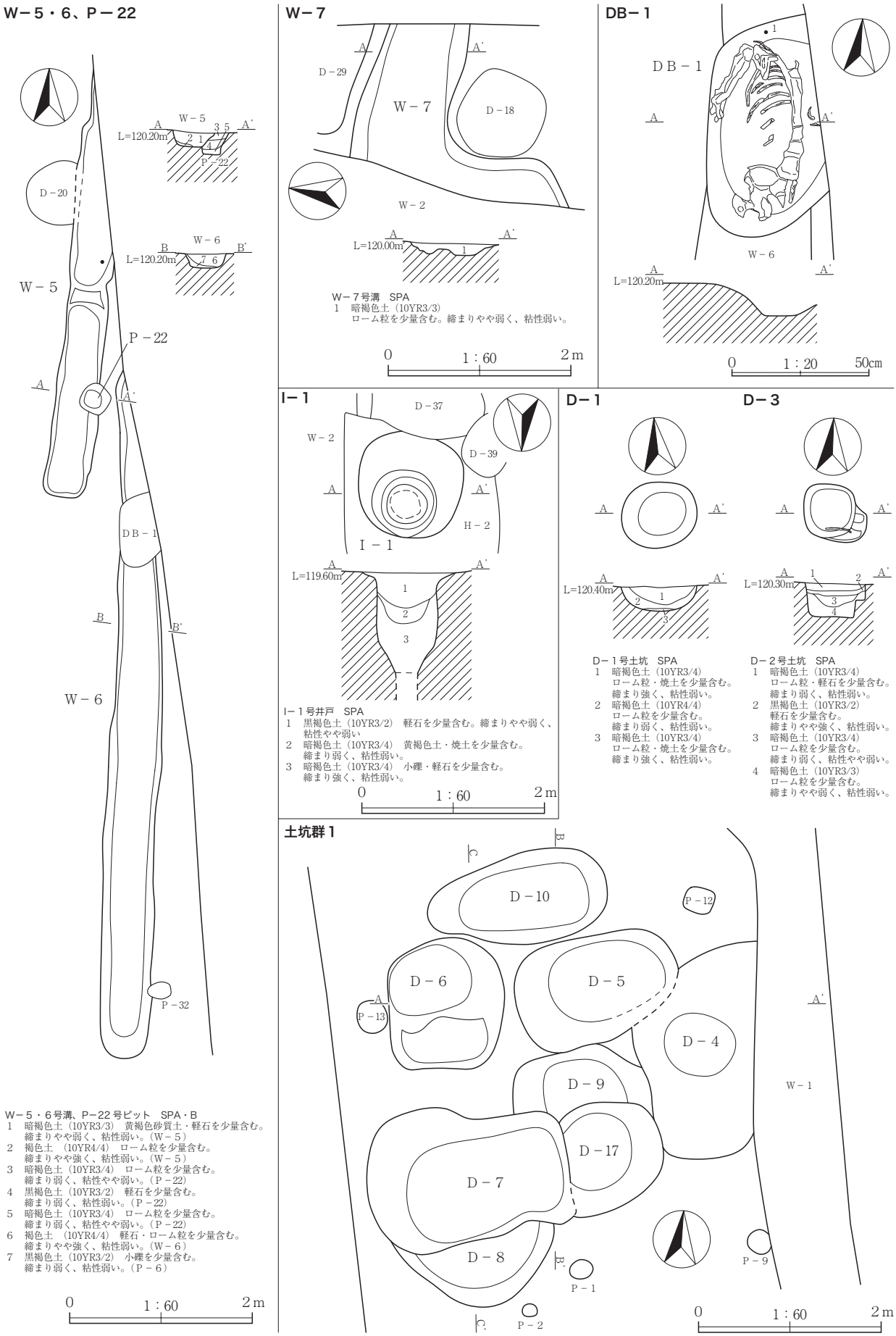
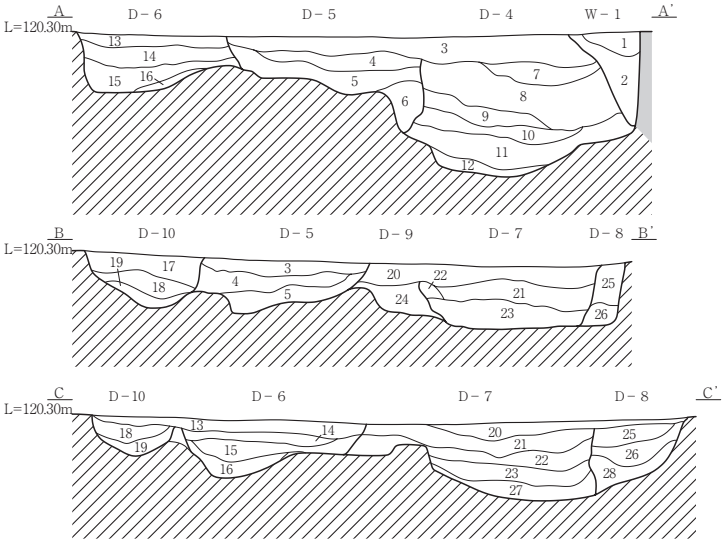
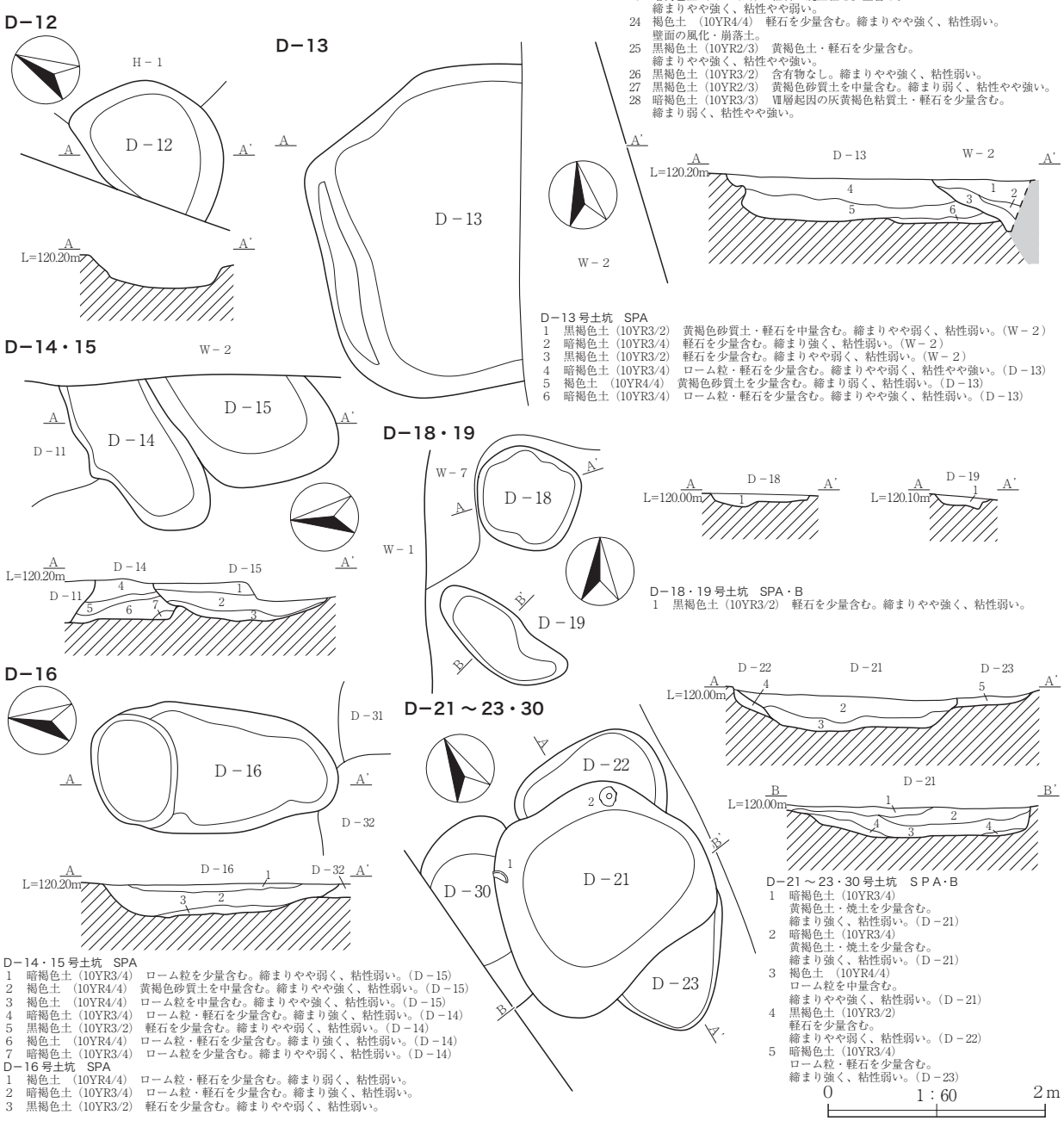


Fig.10　元総社蒼海遺跡群（44）W－5～7号溝、DB－1号土坑墓、D－1・3号土坑、土坑群1



土坑群１　SPA・B・C

1　暗褐色土（10YR3/3）　灰黄褐色粘質土を少量含む。
　締まりやや弱く、粘性やや強い。（W－１）
2　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。（W－１）
3　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　Ⅶ層起因の灰黄褐色粘質土を中量含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）　黒褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
8　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土・軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
9　暗褐色土（10YR3/3）　Ⅶ層起因の灰黄褐色粘質土を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。
10　暗褐色土（10YR3/3）　Ⅶ層起因の灰黄褐色粘質土を中量含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。
11　黒褐色土（10YR2/2）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。
12　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色砂質土を中量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
13　黒褐色土（10YR2/2）　軽石を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
14　褐色土　（10YR4/4）　黒褐色土・軽石を少量含む。
　締まりやや弱く、粘性やや弱い。
15　褐色土　（10YR4/4）　黄褐色土・焼土粒を少量含む。
　締まりやや強く、粘性弱い。
16　暗褐色土（10YR3/3）　Ⅶ層起因の灰黄褐色粘質土を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。
17　褐色土　（10YR4/4）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。
18　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
19　暗褐色土（10YR3/3）　Ⅶ層起因の灰黄褐色粘質土・軽石を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。
20　褐色土　（10YR4/4）　黄褐色土・焼土粒・軽石を少量含む。
　締まりやや強く、粘性弱い。
21　褐色土　（10YR4/4）　黄褐色土を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
22　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
23　暗褐色土（10YR3/3）　軽石・焼土粒を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや弱い。
24　褐色土　（10YR4/4）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
　壁面の風化・崩落土。
25　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色土・軽石を少量含む。
　締まりやや強く、粘性やや強い。
26　黒褐色土（10YR3/2）　含有物なし。締まりやや強く、粘性弱い。
27　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色砂質土を中量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
28　暗褐色土（10YR3/3）　Ⅶ層起因の灰黄褐色粘質土・軽石を少量含む。
　締まり弱く、粘性やや強い。



D－13 号土坑　SPA

1　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色砂質土・軽石を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（W－２）
2　暗褐色土（10YR3/4）　軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。（W－２）
3　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（W－２）
4　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。（D－13）
5　褐色土　（10YR4/4）　黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。（D－13）
6　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。（D－13）

D－18・19 号土坑　SPA・B

1　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

D－14・15 号土坑　SPA

1　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（D－15）
2　褐色土　（10YR4/4）　黄褐色砂質土を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。（D－15）
3　褐色土　（10YR4/4）　ローム粒を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。（D－15）
4　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。（D－14）
5　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（D－14）
6　褐色土　（10YR4/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。（D－14）
7　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（D－14）

D－16 号土坑　SPA

1　褐色土　（10YR4/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
3　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

D－21～23・30 号土坑　ＳＰＡ・B

1　暗褐色土（10YR3/4）
　黄褐色土・焼土を少量含む。
　締まり強く、粘性弱い。（D－21）
2　暗褐色土（10YR3/4）
　黄褐色土・焼土を少量含む。
　締まり強く、粘性弱い。（D－21）
3　褐色土　（10YR4/4）
　ローム粒を中量含む。
　締まりやや強く、粘性弱い。（D－21）
4　黒褐色土（10YR3/2）
　軽石を少量含む。
　締まりやや弱く、粘性弱い。（D－22）
5　暗褐色土（10YR3/4）
　ローム粒・軽石を少量含む。
　締まり強く、粘性弱い。（D－23）

Fig.11　元総社蒼海遺跡群（44）D－12～16・18・19・21～23・30 号土坑、土坑群１

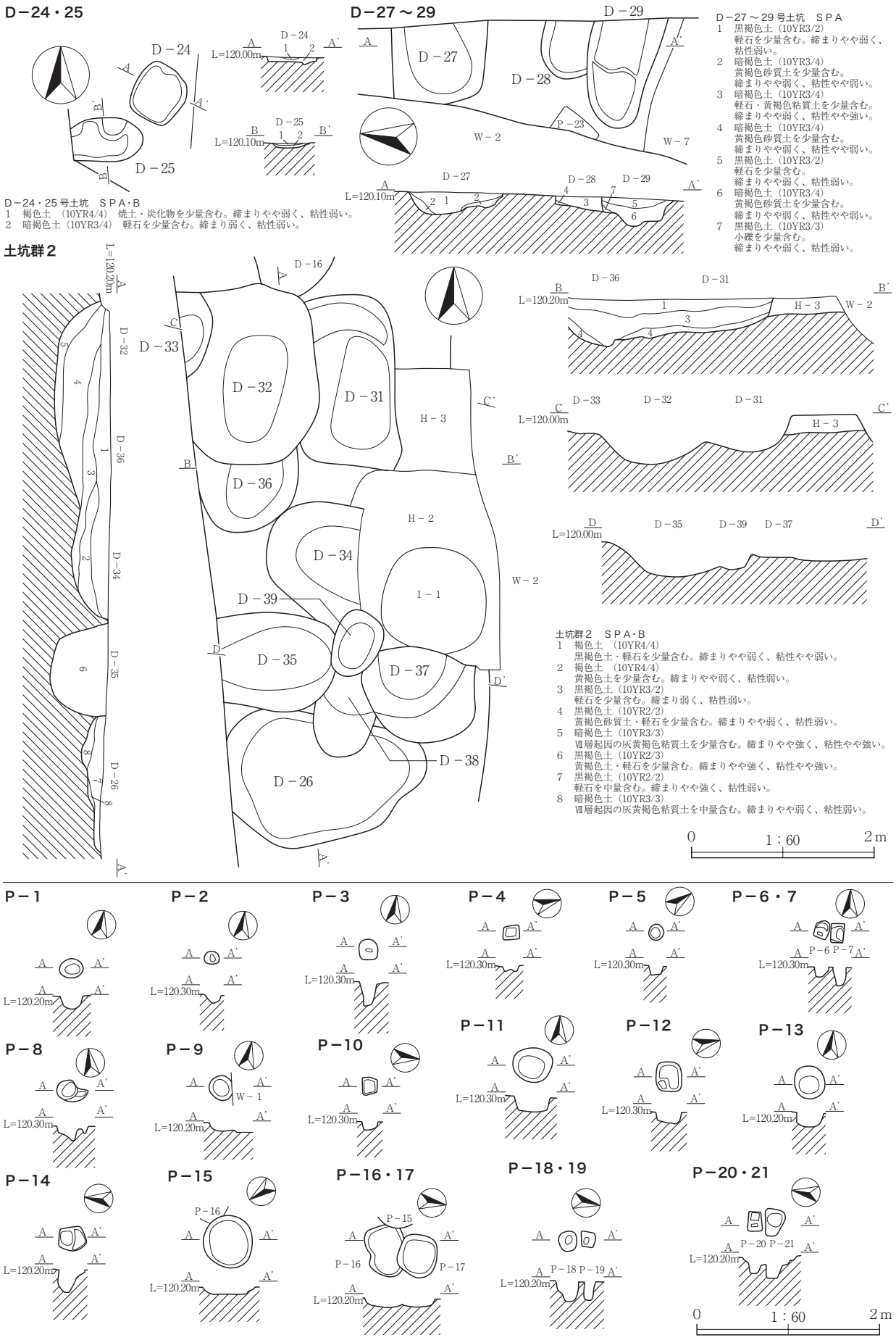


Fig.12　元総社蒼海遺跡群（44）D－24・25・27～29 号土坑、土坑群２、ピット

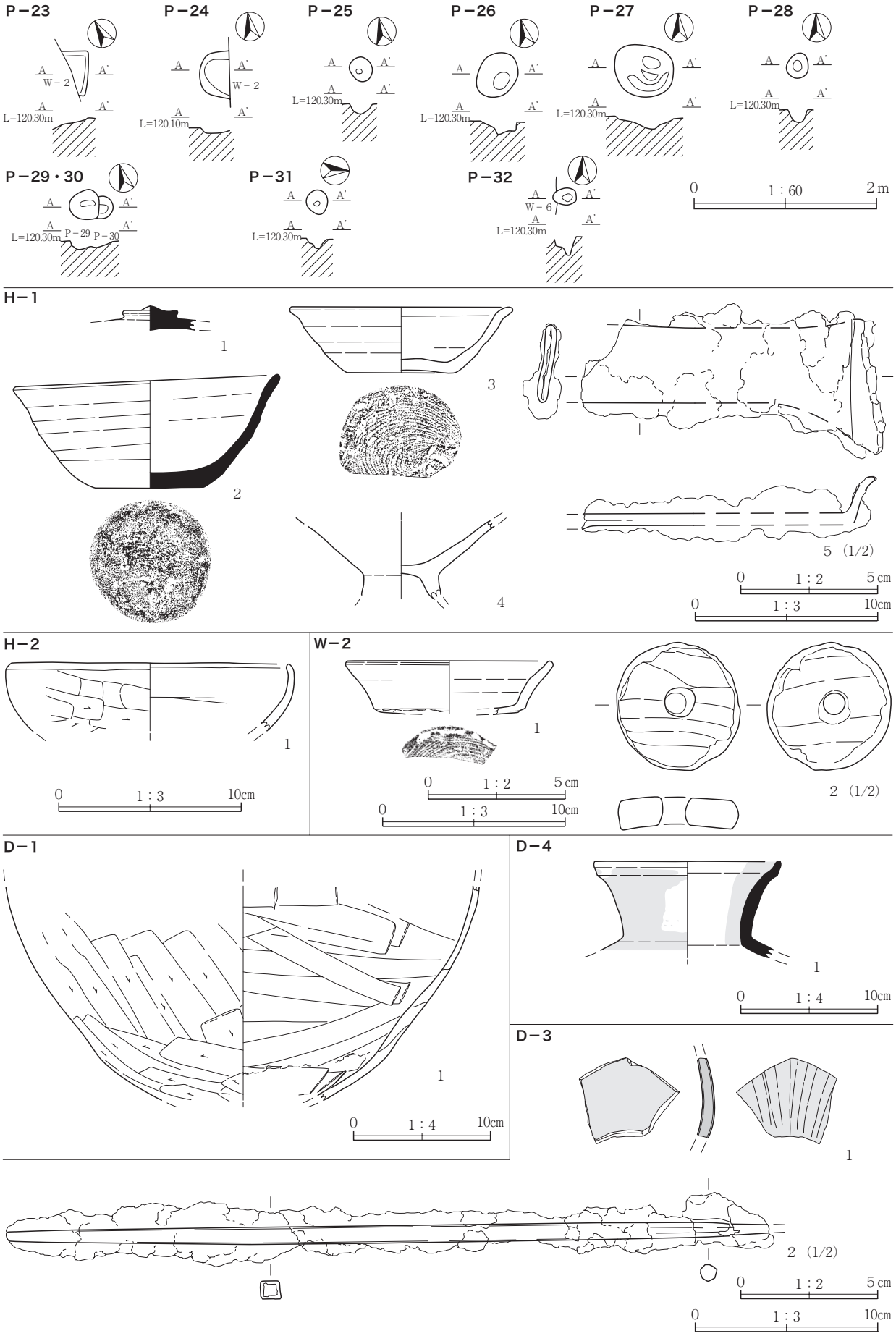


Fig.13　元総社蒼海遺跡群（44）ピット、出土遺物

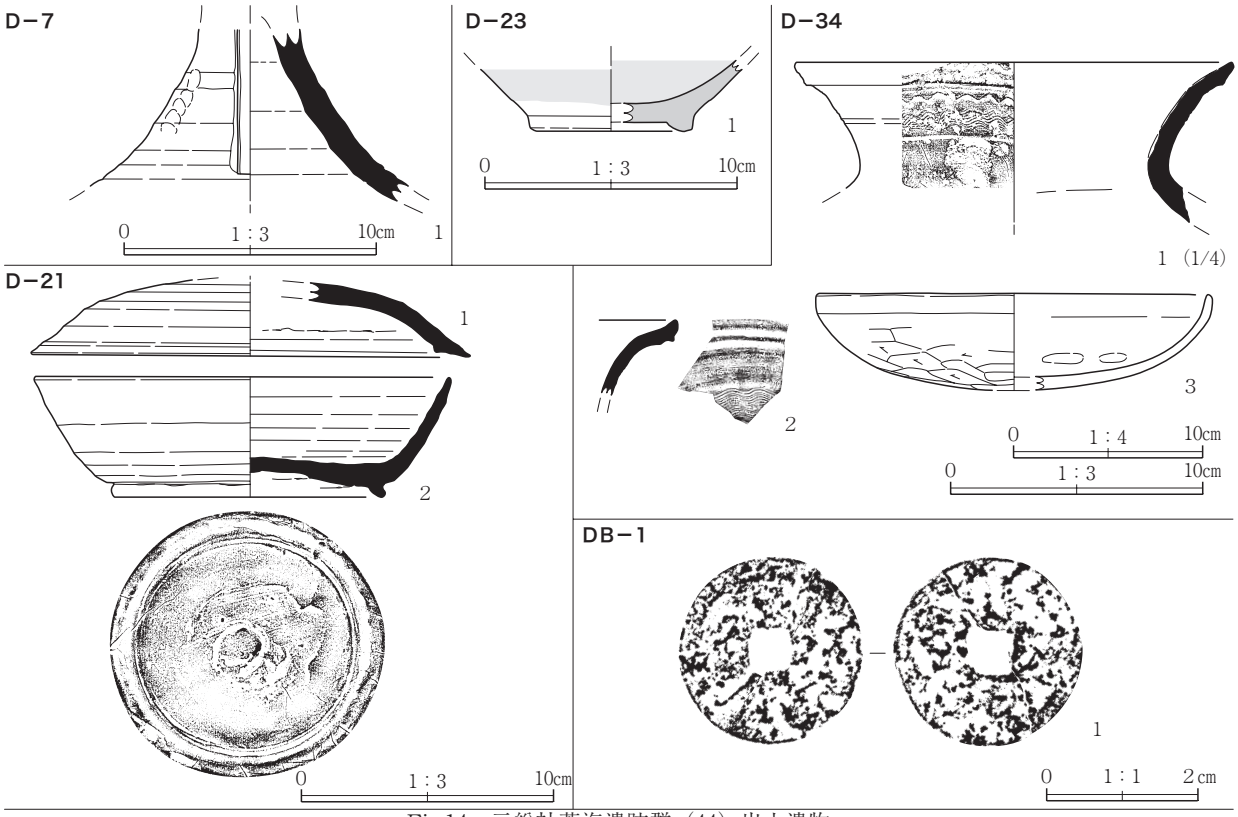


Fig.14　元総社蒼海遺跡群（44）出土遺物

Tab. 2　元総社蒼海遺跡群（44）出土遺物観察表

H−1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　蓋	−	−	(1.3)	白・黒色粒	堅緻	黄灰色	外面ロクロナデ成形後、天井部回転ヘラケズリ後摘み部貼付。内面ロクロナデ成形。	摘み部片。摘み部径〔2.9〕cm。
2	覆土	須恵器　坏	14.1	6.0	6.1	白・黒色粒、石英、チャート粗粒	良好	灰黄色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形、底部回転糸切り後ナデ。内面口縁部ヨコナデ、体部～底部ロクロナデ成形。	ほぼ完存。
3	竈	須恵器　坏	〔12.0〕	6.0	3.6	白・黒・茶色粒、石英	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形。底部回転糸切り。内面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形。	1/3 残存。
4	床面直上	土師器 台付甕	−	〔3.9〕	(4.2)	白・黒・茶色粒、黒雲母	軟質	明赤褐色	内面回転ナデ成形。	体部～底部片。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	床面直上	鉄製品　不明	(11.0)	4.8～2.8	0.4	−	−	−	94.5	右端部は約 110 度屈曲し、幅はやや扇状に広がる。	左端部欠損。

H−2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器　坏	〔15.2〕	−	(3.7)	白・黒色粒、黒雲母	やや軟質	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～体部片。

W−2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	かわらけ	〔11.0〕	〔8.2〕	(2.9)	白・黒色細粒	良好	にぶい 黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/6 残存。

No	出土位置	種別、器種	長径	短径	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	土製品 紡錘車	4.7	4.5	1.2	白・黒色粒	良好	灰色	表・裏面共にヘラナデ及び指ナデが施され、周縁は研磨により円形に作出している。中央に円孔が穿たれている。焙烙片転用か？	完存。円孔径 0.8cm

D−1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器　甕	−	−	(15.7)	白・黒・茶色粒、黒雲母、小石	良好	にぶい橙色	外面上半部縦位ヘラケズリ、下半部斜位・横位ヘラケズリ。 内面横位・斜位ヘラケズリ及びヘラナデ。下位に接合帯顕著。	胴部片。

D−3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	青磁　鉢？	−	−	(4.3)	粘土質、黒色細粒	堅緻	灰オリーブ色	外面地には放射状線文が顕著で、厚さ 1 ㎜弱の施釉。内面厚さ 1 ㎜弱の釉施釉。	体部片。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	床面直上	鉄製品　不明	〔27.9〕	0.7	0.7	−	−	−	102.3	中央付近は四角形の断面を呈するが、右端部に向い円形（六角形？）に変化し、狭小する。	右先端部欠損。

D−4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　甕	13.6	−	(7.0)	白・黒色粒	堅緻	灰色	外面ロクロナデ成形。口唇部は面取りし約 1 cm 幅の口縁帯が廻る。自然釉付着。内面ロクロナデ成形。自然釉付着。	口縁～頸部残存。

D−7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　高坏	−	−	(6.7)	白・黒色細粒	堅緻	灰色	外面ロクロナデ成形。透孔 3 ヶ所。内面ロクロナデ成形。	脚部 1/4 残存。

D－21

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　蓋	〔17.5〕	－	(2.9)	白・黒色粒、チャート粗粒	堅緻	黄灰色	外面口縁～中位ロクロナデ成形、天井部ロクロナデ成形後回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ成形。	脚部1/4残存。
2	床面直上	須恵器 高台付坏	16.4	10.7	4.8	白・黒色細粒、石英粗粒	堅緻	灰白色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形後下半部回転ヘラナデ。底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ、後周縁回転ヘラナデ、後高台貼付。　内面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形。	2/3残存。

D－23

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	白磁　碗	－	〔5.9〕	(2.8)	黒色細粒	堅緻	灰白色	外面ロクロナデ成形。体部に厚さ1mm弱の施釉。底部削り出し高台。内面ロクロナデ成形。全面に厚さ1mm弱の施釉。	体部～底部片。

D－34

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　甕	〔23.2〕	－	(6.7)	白・黒・茶色粒	やや軟質	灰白色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。口縁部及び頸部上半櫛描波状文。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	口縁～頸部片。
2	覆土	須恵器　甕	－	－	(3.9)	白色粒	堅緻	灰色	外面ロクロナデ成形。頸部に櫛描波状文。内面ロクロナデ成形。	口縁部～頸部片。
3	覆土	土師器　坏	〔15.5〕	－	(3.8)	白・黒色粒、白雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	1/8残存。

DB－1

No	出土位置	銭種名	初鋳年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量	残存状況・備考
1	床面直上	不明	－	銅	25.44	6.02	1.52	2.7	完存、判読困難。

2　元総社蒼海遺跡群（45）

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.15・21、PL 3）

位置　X 224、Y 213・214　**主軸方向**　N－88°－E　**規模**　東西軸4.24 m、南北軸3.69 m、現壁高0.08 m。東壁を攪乱により削平される。　**面積**　(11.33) ㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床。竈周辺から住居中央部にかけて、やや硬化を認められる。　**竈**　南東壁に位置する。確認長0.61 m、燃焼部幅0.27 mを測る。　**貯蔵穴**　北東隅に位置する。東西0.49 m、南北0.51 m、深さ0.31 mを測り、ほぼ円形を呈する。　**重複**　D－5・7と重複し、新旧関係は本遺構→D－5・7である。　**出土遺物**　土師器坏（1、2）、高台坏（3、4）、高台皿（5、6）、土師器甕（7）の7点を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

H－2号住居跡（Fig.16・21、PL 3）

位置　X 225･226、Y 208･209　**主軸方向**　N－60°－E　**規模**　東西軸4.97 m、南北軸（3.55）m、現壁高0.15 m。住居東半は調査区外になる。　**面積**　(9.41) ㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床。　**重複**　D－14・15・16・20・21と重複し、新旧関係はD－20・21→本遺構→D－14・15・16である。D－20・21は別遺構として扱っているが、本遺構に伴う床下土坑の可能性も考えられる。　**出土遺物**　土師器坏（1～5）、土師器甕（6）、こも編石（7）の7点を図示。　**時期**　出土遺物の傾向から6世紀後半～7世紀前半と想定される。

（2）溝

W－1号溝（Fig.16・21、PL 3）

位置　X 220～227、Y 211～213　**主軸方向**　N－87°－E　規模　長さ31.84 m、上幅5.84 m、下幅1.88 m、深さ2.61 m。　**形状等**　西から東へ走行し、断面はU字状を呈する。　**重複**　W－2・3・6・8・10、地下式坑、I－3と重複し、新旧関係はW－2・3・6・8→本遺構→W－10、I－3である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器、土師器、かわらけ、陶磁器類、石製品が出土している。かわらけ（1）、石臼（2）、くぼみ石（3）を図示。　**時期**　規模・形状等から蒼海城に関連する堀の可能性が考えられ、15世紀代と想定される。　**備考**　元総社蒼海遺跡群（29）1区において確認されていたW－1号溝に続く遺構である。

W－2号溝（Fig.17・21）

位置　X 226・227、Y 213・214　**主軸方向**　N－32°－E　規模　長さ3.96 m、上幅1.47 m、下幅1.24 m、深さ0.47 m。　**形状等**　南西から北東に走行し、断面は緩やかなU字状を呈する。　**重複**　W－1・3と重複し、新旧関係はW－3→本遺構→W－1である。　**出土遺物**　須恵器、土師器等が出土しており、須恵器高坏（1）、土師器甕（2）、火鉢（3）を図示。　**時期**　出土遺物および重複関係から15世紀代と想定される。

W－３号溝（Fig.17）

位置　X 226 ～ 228、Y 213・214　主軸方向　N － 80°－ E　規模　長さ 9.71 m、上幅 1.41 m、下幅 1.22 m、深さ 0.46 m。　形状等　南西から北東へ走行する。断面は台形を呈する。　重複　W － 1 ・ 2 と重複し、新旧関係は本遺構→W － 2 →W － 1 である。　出土遺物　なし。　時期　重複関係から 15 世紀代と想定される。

W－４号溝（Fig.17、PL ３）

位置　X 221・222、Y 213　主軸方向　N － 84°－ E　規模　長さ 4.73 m、上幅 1.04 m、下幅 0.65 m、深さ 0.17 m。　形状等　西から東へ走行し、断面は不整形な台形を呈する。北側に段を持って張り出す箇所がある。　重複　P － 97 ～ 99 と重複し、新旧関係はP － 97 ～ 99 →本遺構である。　出土遺物　土師器、カワラケ、焙烙が出土しているが、小破片のため図示には至らず。　時期　出土遺物及び重複関係から、中・近世と想定される。

W－５号溝（Fig.17、PL ４）

位置　X 225、Y 207　主軸方向　N － 2°－ E　規模　長さ（2.56）m、上幅 0.22 m、下幅 0.08 m、深さ 0.07 m。　形状等　北から南へ走行し、断面は緩やかなＶ字状を呈する。　出土遺物　なし。　時期　出土遺物・重複関係もなく判然としないが、覆土の堆積状況等から中・近世と想定される。

W－６号溝（Fig.17、PL ４）

位置　X 224・225、Y 209 ～ 211　主軸方向　N － 9°－ W　規模　長さ（10.24）m、上幅 1.21 m、下幅 0.31 m、深さ 0.21 m。　形状等　南西から南東へ方形に走行する。断面は箱型を呈する。　重複　W － 1 、D － 13、P － 86・87 と重複し、いずれの遺構よりも先行する。　出土遺物　須恵器、土師器、陶磁器類、鉄製品等が出土しているが、小破片のため図示には至らず。　時期　出土遺物および重複関係から中世と想定される。

W－７号溝（Fig.17、PL ４）

位置　X 224・225、Y 211　主軸方向　N － 91°－ E　規模　長さ（5.24）m、上幅 0.90 m、下幅 0.73 m、深さ 0.18 m。　形状等　東から西へ走行し、調査区外へ延びる。断面は緩やかなＶ字形を呈する。　出土遺物　須恵器、土師器が少数出土しているが、小破片のため図示には至らず。　時期　覆土の堆積状況等から中・近世と想定される。

W－８号溝（Fig.17、PL ４）

位置　X 225・226、Y 211　主軸方向　N － 70°－ W　規模　長さ（1.67）m、上幅（0.28）m、下幅（0.08）m、深さ 0.08 m。　形状等　東から西へ走行し、断面は台形を呈する。　重複　W － 1 ・ 6 、Ｉ － 3 と重複し、新旧関係は本遺構→W － 6 →W － 1 →Ｉ － 3 である。　出土遺物　なし。　時期　重複関係から中・近世と想定される。　備考　規模・走行方向からW － 9 号溝と同一の遺構になる可能性も考えられる。

W－９号溝（Fig.17・22、PL ４）

位置　X 226、Y 211　主軸方向　N － 56°－ E　規模　長さ（1.31）m、上幅 0.44 m、下幅 0.35 m、深さ 0.06 m。　形状等　南東から北西へ走行し、断面は台形を呈する。　重複　Ｉ － 3 と重複し、新旧関係は本遺構→Ｉ － 3 である。　出土遺物　なし。　時期　重複関係から中・近世と想定される。　備考　規模・走行方向からW － 8 号溝と同一の遺構になる可能性も考えられる。

W－ 10 号溝（Fig.17・22、PL ４）

位置　X 227 ～ 232、Y 211 ～ 214　主軸方向　N － 76°－ W　規模　長さ（21.54）m、上幅（8.97）m、深さ 1.61 m。　形状等　北から南東へ走行し、断面は緩やかなＶ字状を呈する。　重複　W － 1 と重複し、新旧関係はW － 1 →本遺構である。　出土遺物　須恵器、土師器、かわらけ、焙烙等が出土しており、石鉢（1）を図示。　時期　規模・形状等から蒼海城に関連する施設の可能性が考えられ、15 世紀代と想定される。　備考　W － 1 号溝を重機で先行掘削したため、断面のみでの記録となっている。北東隅は近現代の廃棄物により埋没しており崩落の危険が伴うため未調査であり、東側の立ち上がりは確認できていない。本調査区北東側で前橋市教育委員会が実施した、平成 24 年度上野国府等範囲内容確認調査においても検出されており、南北に延びる遺構である。

（3）DB－1号土坑墓（Fig.17・22、PL 4）

位置　X 225・226、Y 213　**主軸方向**　N－7°－E　**規模**　長軸 1.24 m、短軸 1.20 m、深さ 1.69 m。　**形状等**　平面円形を呈する。　**出土遺物**　覆土中より須恵器、土師器、陶磁器類、古銭（寛永通寶）、鉄製品（釘）、キセル等が出土し、古銭（1）、煙管（2、3）を図示。　**時期**　出土遺物から近世と推定される。

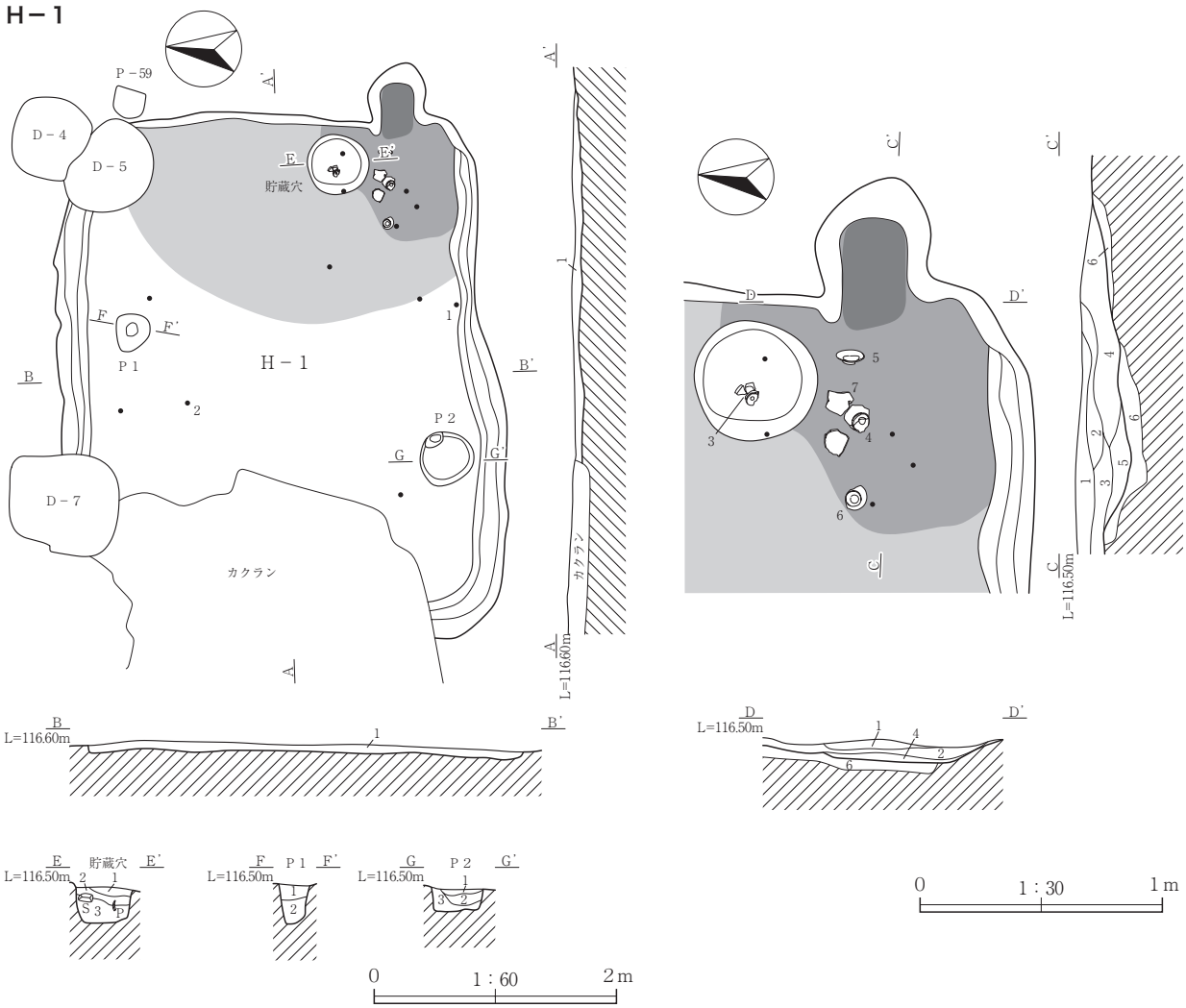
（4）地下式坑（Fig.18・22、PL 4）

位置　X 221・222、Y 211　**主軸方向**　N－88°－E　**規模**　長軸（3.01）m、短軸（1.71）m、深さ 0.71 m。　**形状等**　W－1号溝を重機により先行掘削したため、全体的な平面形態は不明である。　**重複**　W－1と重複し、新旧関係は本遺構→W－1である。　**出土遺物**　須恵器、石製品が少数出土しており、石鉢（1）1点を図示。　**時期**　形状、重複関係から中世と考えられる。

（5）井戸、土坑、ピット（Fig.18～20・22・23、PL 5）

井戸、土坑、ピットについては「Tab. 4　元総社蒼海遺跡群（44）、（45）　土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

H－1

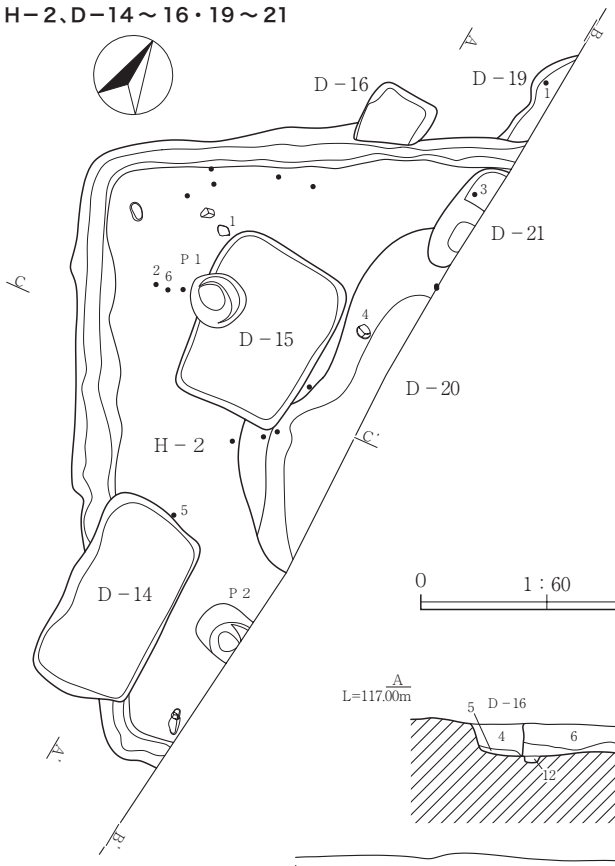


H－1号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
H－1号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
4　暗褐色土（10YR3/3）　小礫を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　灰・焼土を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（灰層）
6　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。（カマド掘り方）

H－1号住居跡貯蔵穴　SPE
1　黒褐色土（10YR2/3）　軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性強い。
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
H－1号住居跡P1　SPF
1　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を多く含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
H－1号住居跡P2　SPG
1　黒褐色土（10YR2/3）　黄褐色砂質土・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

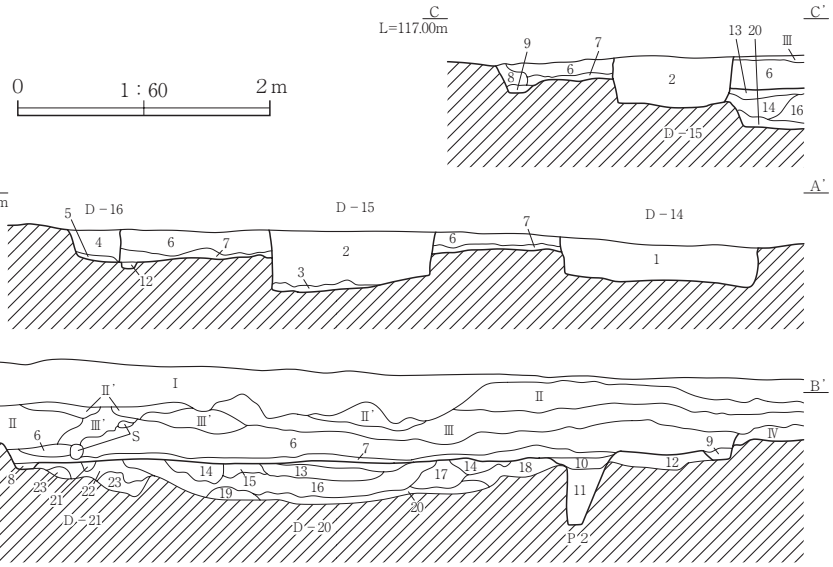
Fig.15　元総社蒼海遺跡群（45）H－1号住居跡

H－2、D－14～16・19～21

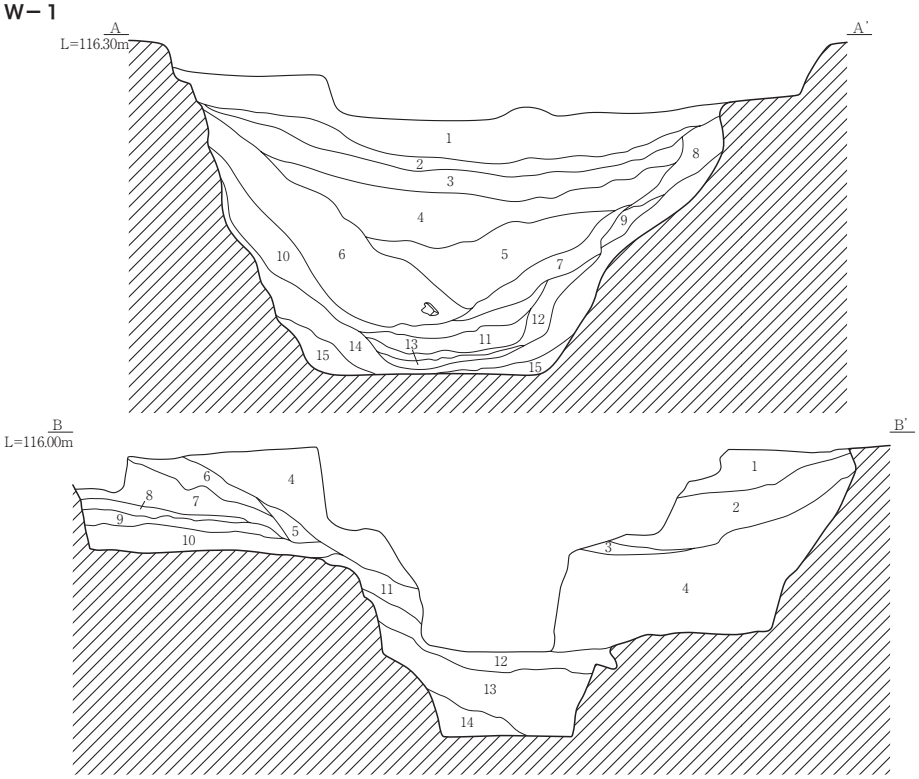


H－2号住居跡、D－14～16・19～21号土坑　SPA～C

1　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－14）
2　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－15）
3　灰黄褐色土（10YR4/2）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－15）
4　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－16）
5　灰黄褐色土（10YR4/2）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－16）
6　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（H－2）
7　褐色土（10YR4/4）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（H－2）
8　褐色土（10YR4/6）　明黄褐色ブロックを中量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（H－2）
9　褐色土（10YR4/6）　明黄褐色ブロックを中量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（H－2）
10　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
（H－2P2覆土）
11　褐色土（10YR4/6）　黄褐色ブロックを中量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
（H－2P2覆土）
12　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
（H－2住居掘り方）
13　褐色土（10YR4/6）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－20）
14　暗褐色土（10YR3/4）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－20）
15　灰黄褐色土（10YR4/2）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まり弱く、粘性やや弱い。（D－20）
16　褐色土（10YR4/4）　明黄褐色ブロックを中量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－20）
17　褐色土（10YR4/4）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－20）
18　褐色土（10YR4/4）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－20）
19　褐色土（10YR4/4）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－20）
20　黒褐色土（10YR3/2）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まり強く、粘性やや弱い。（D－20）
21　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－21）
22　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－21）
23　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（D－21）
24　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－19）
25　黒褐色土（10YR2/3）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－19）
26　黒褐色土（10YR2/3）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（D－19）
27　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（D－19）
28　褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－19）



W－1



W－1号溝　SPA・B

1　暗褐色土（10YR3/3）
ローム粒・軽石を少量含む。
締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
ローム粒を少量含む。
締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）
灰黄褐色土・ロームブロックを中量含む。
締まり弱く、粘性やや強い。
4　褐色土　（10YR4/4）
黄褐色土を中量含む。
締まりやや強く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR3/4）
ロームブロックを少量含む。
締まりやや弱く、粘性弱い。
6　黒褐色土（10YR3/2）
黄褐色砂質土・軽石を少量含む。
締まりやや弱く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）
ローム粒を少量含む。
締まりやや弱く、粘性やや強い。
8　暗褐色土（10YR3/4）
黒褐色ブロックを少量含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
9　暗褐色土（10YR3/3）
黒褐色ブロックを中量含む。
締まり強く、粘性やや強い。10層と同一層。
10　暗褐色土（10YR3/3）
黒褐色ブロックを中量含む。
締まり強く、粘性やや強い。
11　褐色土　（10YR4/4）
黄褐色土を中量含む。
締まりやや強く、粘性弱い。
12　暗褐色土（10YR3/4）
黒褐色ブロックを少量含む。
締まりやや強く、粘性やや強い。
13　暗褐色土（10YR3/4）
ローム粒を少量含む。
締まりやや弱く、粘性弱い。
14　暗褐色土（10YR3/3）
砂粒・ローム粒を少量含む。
締まり弱く、粘性弱い。
15　暗褐色土（10YR3/3）
砂粒・ローム粒を少量含む。
締まり弱く、粘性弱い。

0　1：60　2m

Fig.16　元総社蒼海遺跡群（45）H－2号住居跡、W－1号溝、D－14～16・19～21号土坑

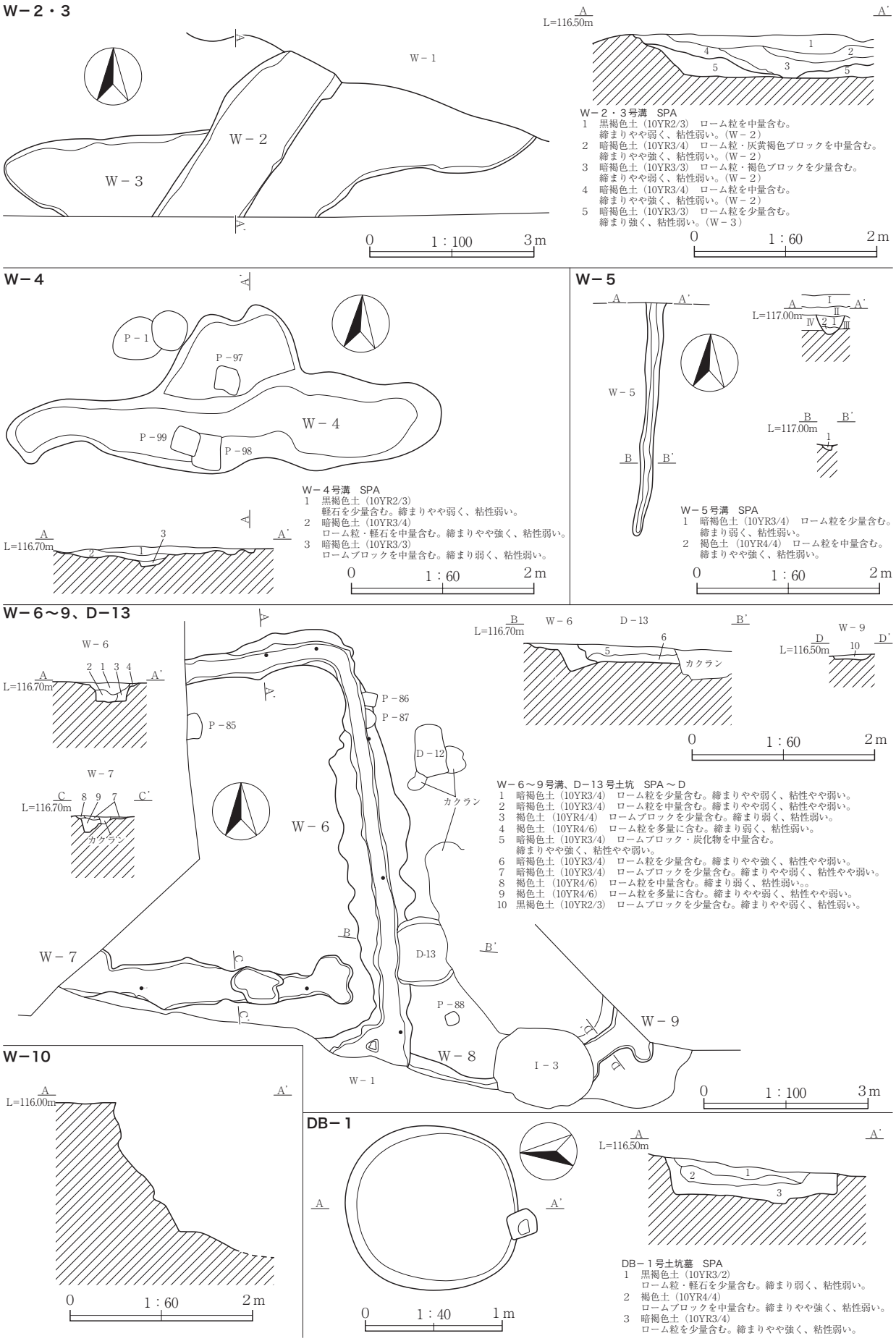
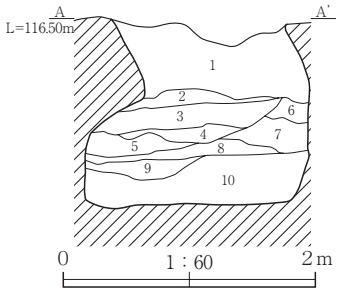


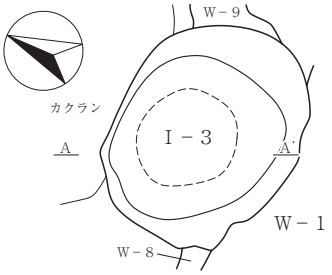
Fig.17　元総社蒼海遺跡群（45）W－2～10号溝、D－13号土坑、DB－1号土坑墓

地下式坑

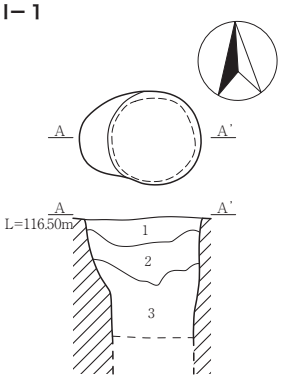


地下式坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）
　ローム粒・軽石を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　褐色土（10YR4/4）
　ロームブロックを多量に含む。締まりやや強く、粘性弱い。
　（天井崩落土）
3　暗褐色土（10YR3/4）
　ローム粒少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR3/2）
　軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR4/4）
　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
6　褐色土（10YR4/4）
　ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
7　褐色土（10YR4/4）
　軽石を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
8　暗褐色土（10YR4/4）
　ローム粒を少量含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
9　褐色土（10YR4/4）
　ローム粒・焼土を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
10　褐色土（10YR4/4）
　軽石を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

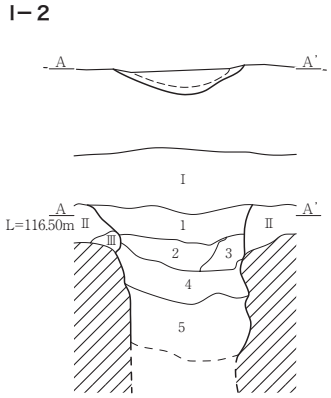
I－3

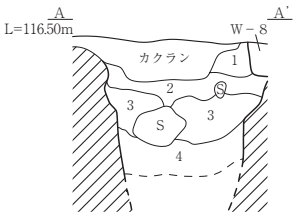


I－1



I－2



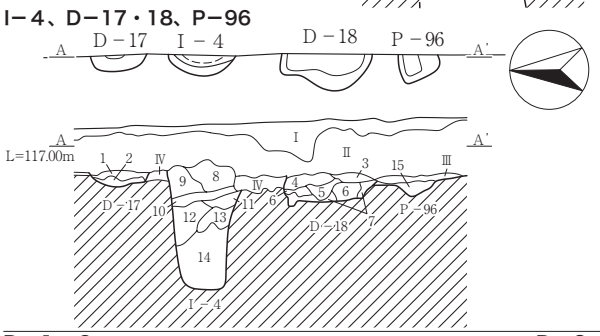


I－１号井戸　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒・軽石を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　褐色土　（10YR4/4）ロームブロック・小礫を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

I－２号井戸　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
4　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒・軽石を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　褐色土（10YR4/4）　ロームブロック・小礫を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。

I－３号井戸　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや強い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性強い。

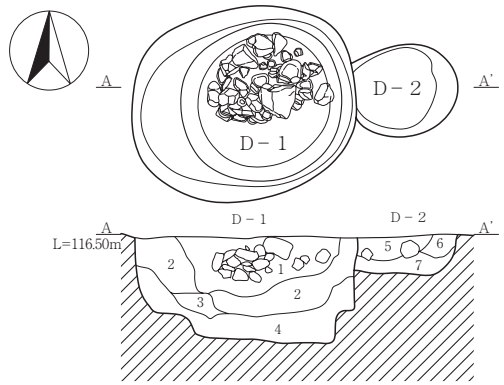
I－4、D－17・18、P－96



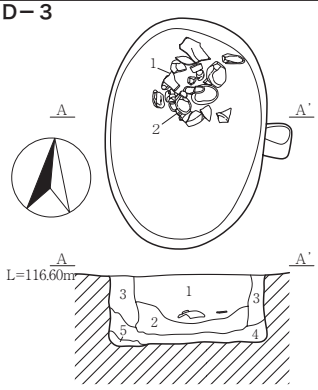
I－４号井戸、D－17・18号土坑、P－96ピット　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－17）
2　褐色土（10YR3/2）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（D－17）
3　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－18）
4　黒褐色土（10YR2/3）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－18）
5　黒褐色土（10YR2/3）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（D－18）
6　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（D－18）
7　褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（D－18）
8　暗褐色土（10YR3/3）　灰色ローム粒を中量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（I－4）
9　暗褐色土（10YR3/3）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。（I－4）
10　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色ブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。（I－4）
11　黒褐色土（10YR3/2）　灰色ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（I－4）
12　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色砂質土石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。（I－4）
13　黒褐色土（10YR3/1）　明黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（I－4）
14　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。（I－4）
15　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。（P－96）

0　1：60　2m

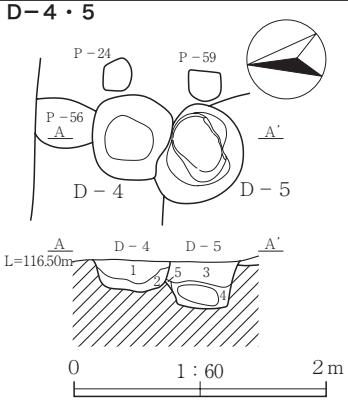
D－1・2



D－3



D－4・5



0　1：60　2m

D－１・２号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。（D－１）
2　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。（D－１）
3　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・焼土を少量含む。締まり強く、粘性弱い。（D－１）
4　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（D－１）
5　暗褐色土（10YR4/4）　ローム粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。（D－２）
6　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。（D－２）
7　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まり強く、粘性弱い。（D－２）

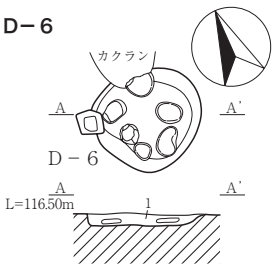
D－３号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5　暗褐色土（10YR4/4）　ローム粒・軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

D－４・５号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（D－４）
2　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを中量含む。締まり弱く、粘性弱い。（D－４）
3　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（D－５）
4　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。（D－５）
5　暗褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを中量含む。締まり弱く、粘性弱い。（D－５）

D－６号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

D－７号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを中量含む。締まり弱く、粘性弱い。

D－6



D－7

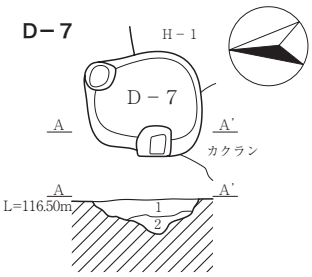
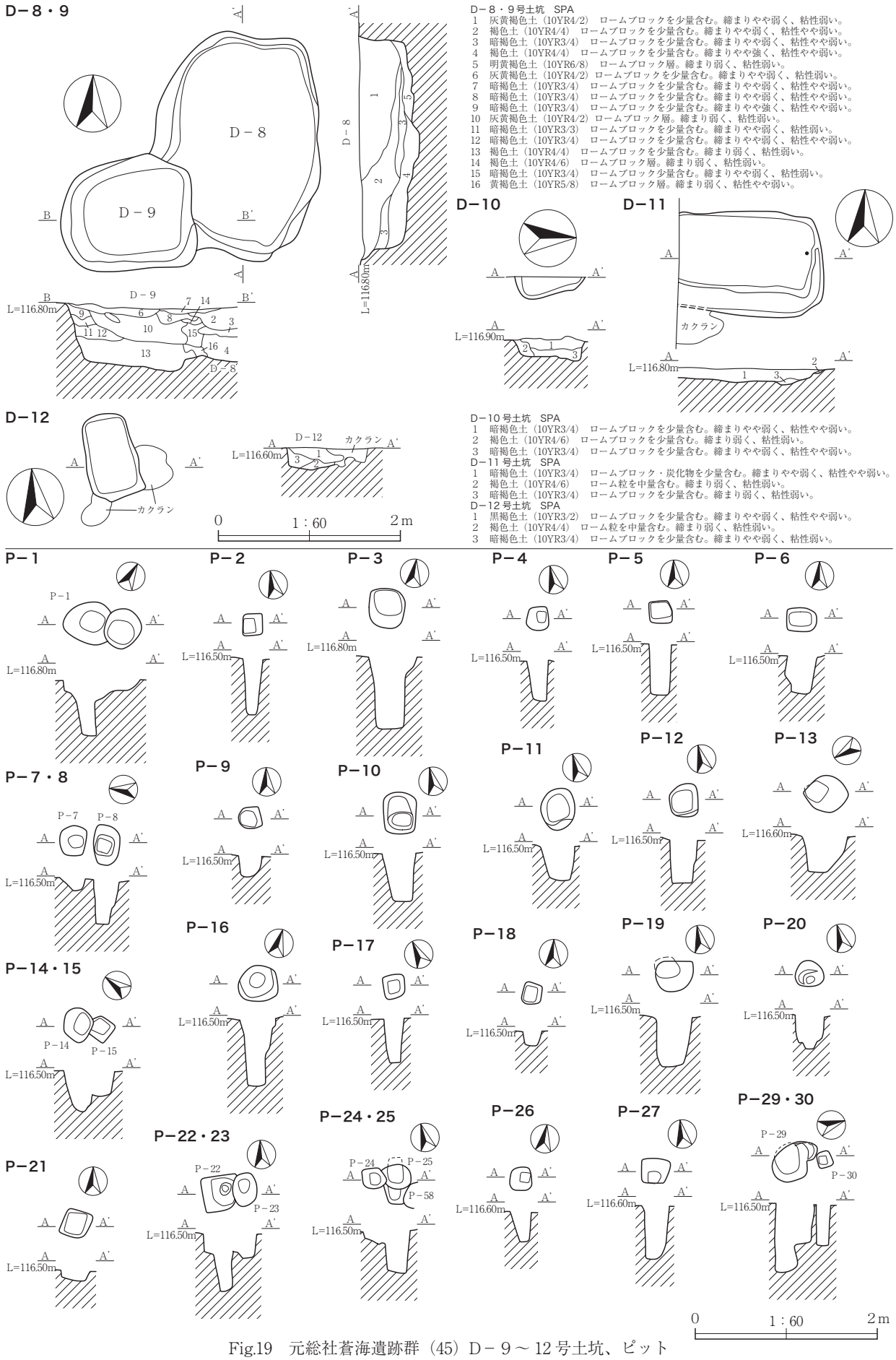


Fig.18　元総社蒼海遺跡群（45）地下式坑、I－１～４号井戸、D－１～７・17・18号土坑、P－96号ピット



D－8・9号土坑　SPA
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
4　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
5　明黄褐色土（10YR6/8）　ロームブロック層。締まり弱く、粘性弱い。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
9　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
10　灰黄褐色土（10YR4/2）ロームブロック層。締まり弱く、粘性弱い。
11　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
12　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
13　褐色土（10YR4/4）　ロームブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
14　褐色土（10YR4/6）　ロームブロック層。締まり弱く、粘性弱い。
15　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
16　黄褐色土（10YR5/8）　ロームブロック層。締まり弱く、粘性やや弱い。

D－10号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2　褐色土（10YR4/6）　ロームブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。

D－11号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック・炭化物を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2　褐色土（10YR4/6）　ローム粒を中量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

D－12号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2　褐色土（10YR4/4）　ローム粒を中量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

Fig.19　元総社蒼海遺跡群（45）D－9～12号土坑、ピット

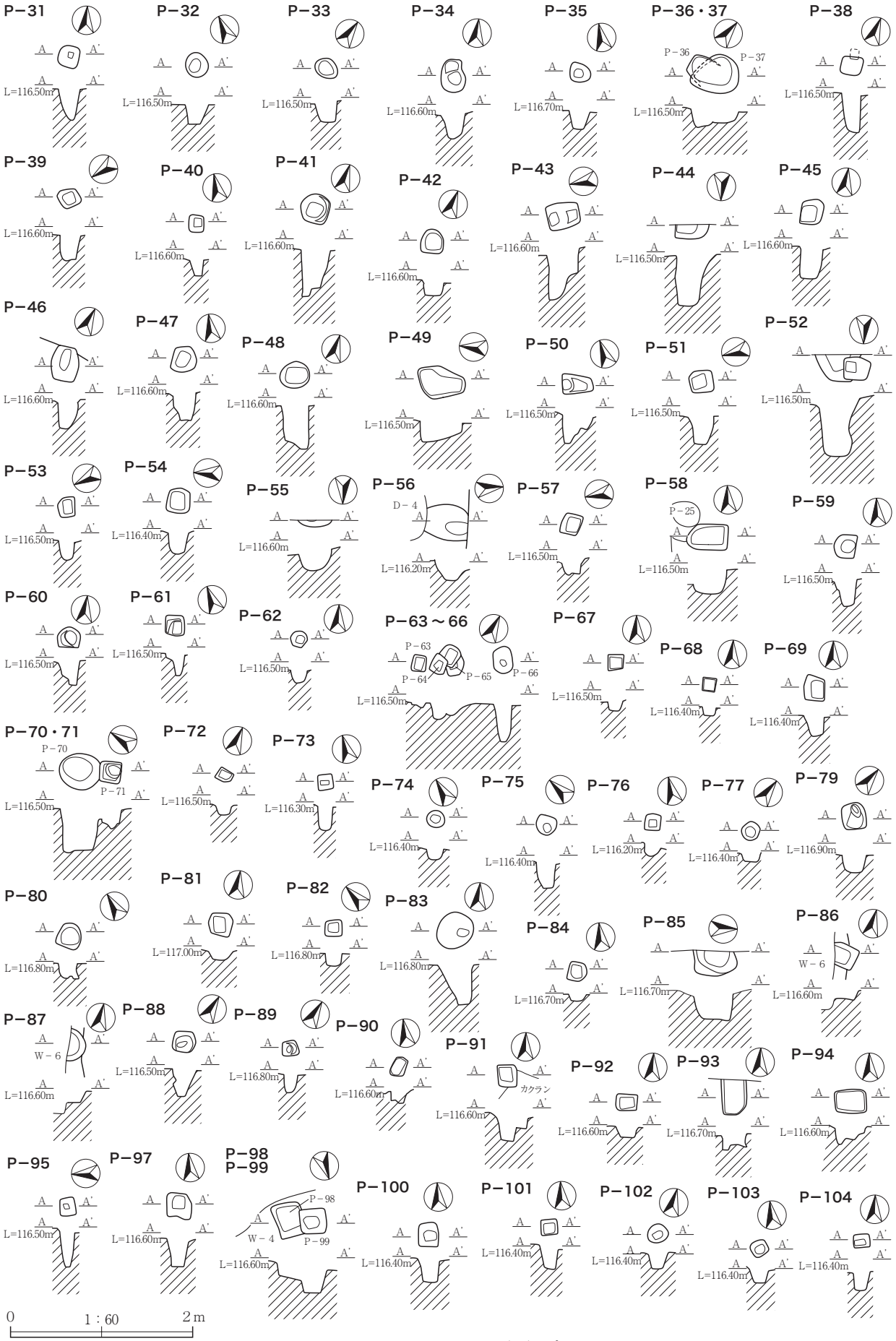


Fig.20　元総社蒼海遺跡群（45）ピット

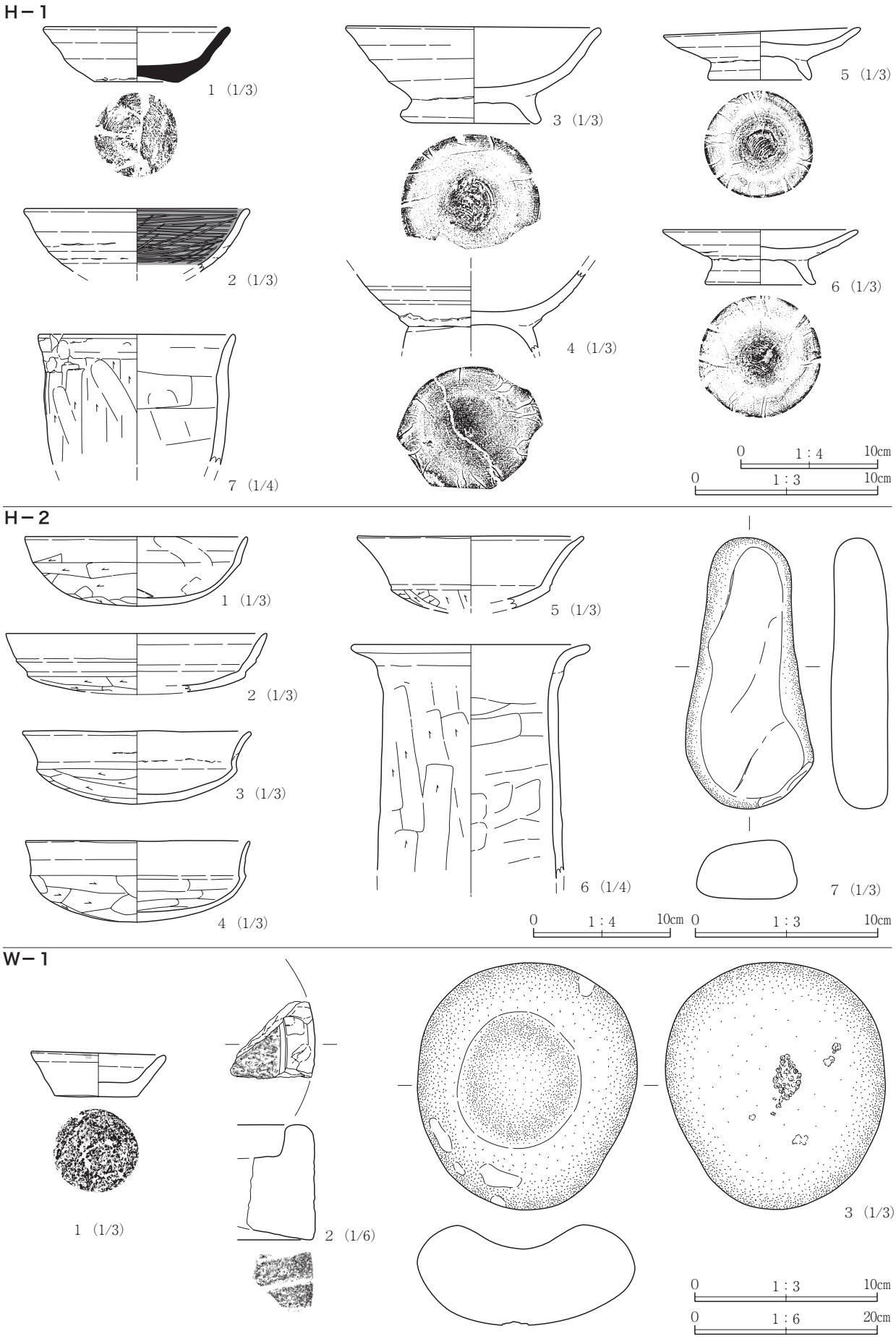


Fig.21　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物

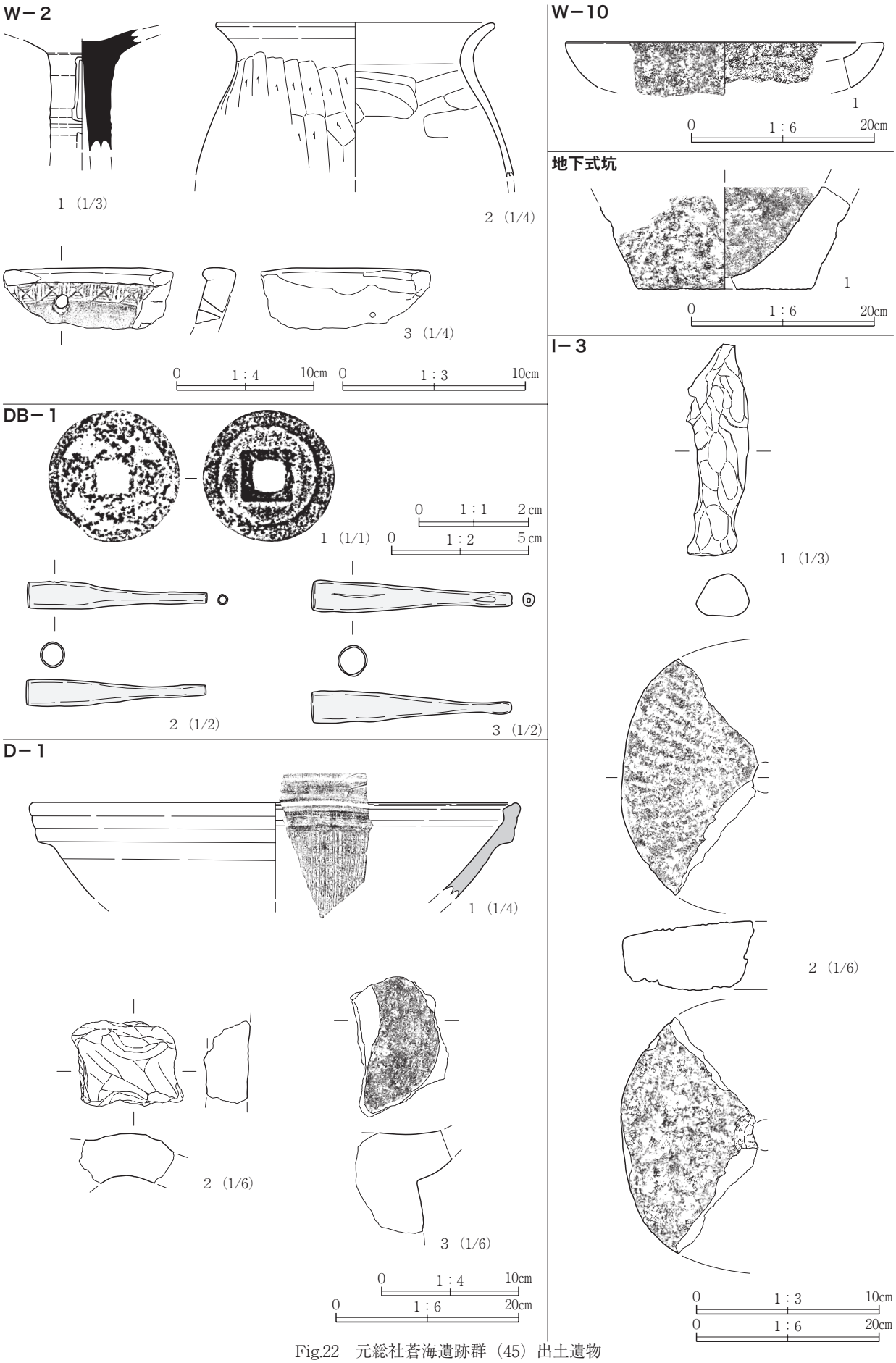


Fig.22　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物

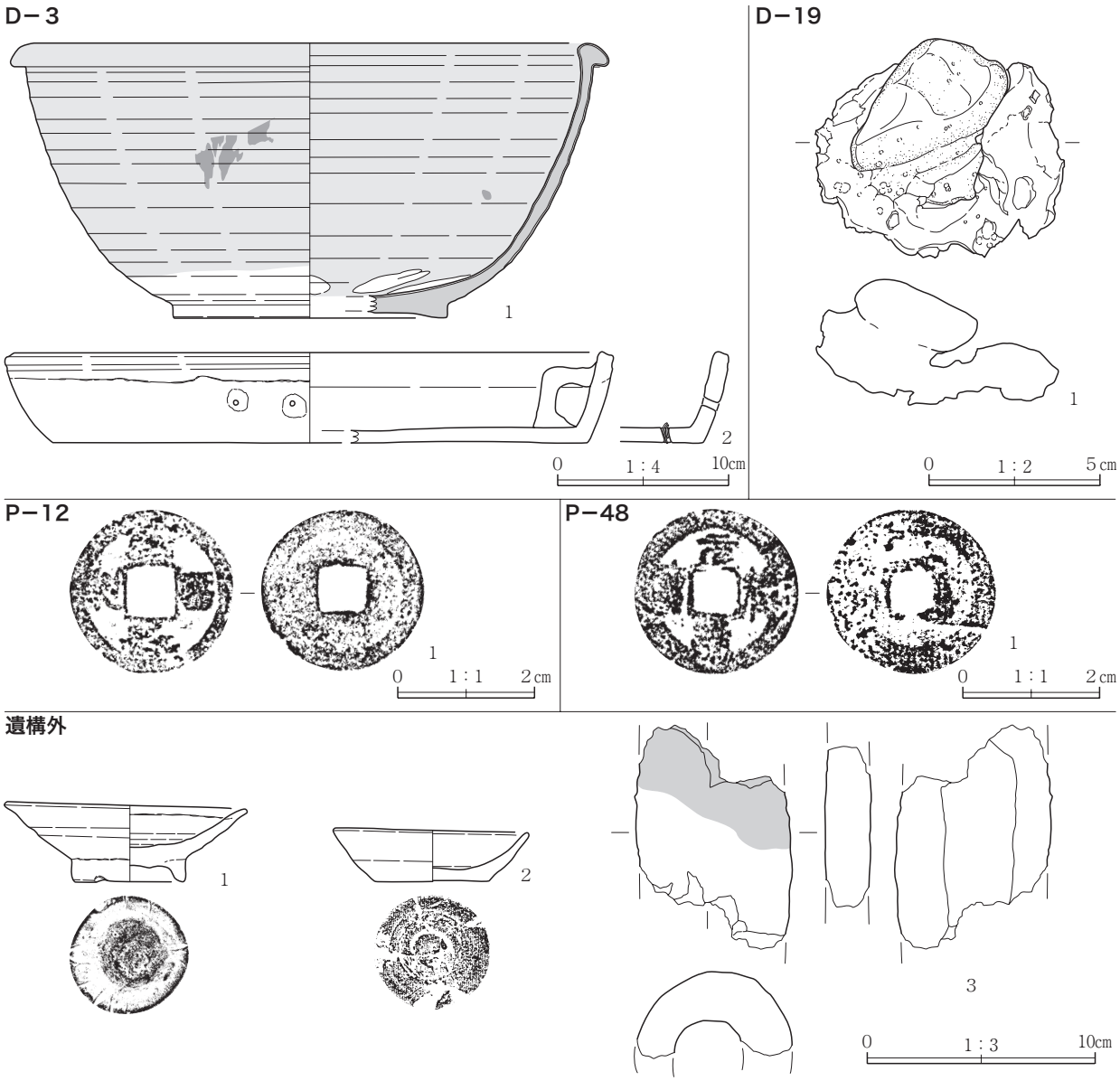


Fig.23　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物

Tab. 3　元総社蒼海遺跡群（45）出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	須恵器　坏	〔9.9〕	4.6	3.0	白・黒色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/2 残存。
2	床面直上	土師器　坏	〔12.2〕	－	(3.5)	白・黒色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。 内面口縁部～体部ミガキ調整。黒色処理。	口縁部 1/4 残存。
3	床面直上	須恵器 高台付坏	13.8	7.2	5.3	白・黒・茶色粒、小礫	やや軟質	浅黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形。底部回転糸切り後高台貼付。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	2/3 残存。
4	床面直上	須恵器 高台付坏	－	－	(4.5)	白・黒・茶色細粒	良好	浅黄橙色	外面体部ロクロナデ成形。底部回転糸切り後高台貼付。 内面体部ロクロナデ成形後ナデ。	1/3 残存。
5	床面直上	土師器 高台付皿	10.6	5.4	2.8	白色細粒	良好	灰白色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	完存。
6	床面直上	土師器 高台付坏	〔10.6〕	5.9	3.0	白・黒・茶色粒	良好	灰白色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ成形後ナデ。底部回転糸切り後高台貼付。　内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	2/3 残存。
7	床面直上	土師器　甕	〔14.3〕	－	(9.5)	白・黒・茶色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下縦位ヘラケズリ及び指ナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及び指ナデ。	口縁～肩部 1/4 残存。

H－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	土師器　坏	〔12.2〕	－	(3.8)	黒雲母、チャート	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/3 残存。
2	床面直上	土師器　坏	〔14.3〕	－	(4.4)	白・黒・茶色粒	良好	灰黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～体部片。
3	床面直上	土師器　坏	〔12.4〕	－	4.0	白・黒色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/3 残存。
4	床面直上	土師器　坏	〔12.2〕	－	(4.5)	黒色粒、黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/3 残存。
5	床面直上	土師器　坏	〔12.4〕	－	(3.3)	白・黒・茶色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～体部片。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	床面直上	土師器　甕	〔17.1〕	－	(17.0)	白・黒・茶色粒、チャート粗粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～胴部1/8残存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	覆土	石器　磨石	14.9	7.1	3.3	安山岩	－	－	551.0	下端部・右半部及び裏面は滑らかな磨り面で光沢が顕著。	完存。

W－1

No	出土位置	種別、器種	直径	底径	高さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	石製品　茶臼	〔30.6〕	－	12.6	安山岩	－	－	759.4	挽き目は明瞭で、溝幅25㎝。側面に擦痕が顕著。	上臼破片。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	かわらけ	7.3	4.6	2.5	白・黒・茶色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部ヘラ切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	口縁部1/3欠損。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	石器　凹石	13.5	12.0	5.5	安山岩	－	－	1232.0	表面は中央に比較的大きい凹部を有し、周縁は滑らかな磨り面。裏面全体は滑らかで中央付近には竝痕状の敲打痕が顕著。	完存。

W－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	須恵器　高坏	－	－	(6.5)	白・黒色粒	堅緻	黄灰色	外面ロクロナデ成形。脚上半部と下半位に相対する長方形透孔を有する。 内面坏部ナデ。脚天井部に工具による穿穴を有する。	脚部1/2残存。
2	床面直上	土師器　甕	〔20.1〕	－	(11.2)	白・黒色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～肩部1/4残存。
3	床面直上	瓦器　火鉢	〔40.8〕	－	(4.8)	白・黒・茶色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ。内面口縁部は幅広く緩やかに丸みを持ち内側に張出す。張出し直下に型押し文様が連続して全周する。文様下に内面側直径9㎜、外面側直径3㎜の円孔が穿たれている。	口縁部片。

W－10

No	出土位置	種別、器種	直径	底径	高さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	石製品　茶臼	〔34.8〕	－	(5.0)	安山岩	－	－	222.0	外面若干の擦痕がみられる。	下臼、受け皿

DB－1

No	出土位置	銭種名	初鋳年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量	残存状況・備考
1	床面直上	寛永通寶	判別不明	銅	24.23	5.61	1.56	2.8	完存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	直径	吸口径	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	床面直上	銅製品　煙管	6.6	1.0	0.3	－	－	－	5.1	春霞形。	吸口。
3	床面直上	銅製品　煙管	7.3	1.1	0.5	－	－	－	8.0	春霞形。	吸口。

地下式土坑

No	出土位置	種別、器種	直径	底径	高さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	石製品　石鉢	－	〔19.0〕	(11.2)	安山岩	－	－	1445.0	外面側面・底面には擦痕が顕著。	体部～底部1/4残存。

I－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	三足鍋か	11.6	3.3	2.4	白・黒色粒	良好	にぶい黄橙色	外面手捏ね及びナデ。 内面黒色処理。	脚部残存。

No	出土位置	種別、器種	直径	底径	高さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	石製品　穀物臼	〔32.0〕	－	7.1	安山岩	－	－	2305.0	挽き目の摩耗が顕著。	下臼1/4残存。

D－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	陶器　擂鉢	〔35.3〕	－	(7.0)	石英、チャート粗粒	堅緻	外面灰褐色 内面にぶい赤褐色	外面ロクロナデ成形後ヘラナデ。口縁部に2条の沈線。 内面10条一単位の摺り目。	口縁～体部残存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	直径	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	瓦　道具瓦	(9.4)	(12.3)	(5.5)	白・黒色粒	良好	外面にぶい橙、内面褐灰色	外面指ナデによる造形。 内面布目痕及びヘラナデか。	破片。 酸化焔焼成。

No	出土位置	種別、器種	直径	底径	高さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	石製品　茶臼	－	－	(11.3)	安山岩	－	－	1387.0	外面擦痕が若干見られる。 内面はよく摺られ、滑らか。	下臼破片。

D－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	陶器　鉢（美濃）	〔32.4〕	〔16.0〕	16.1	粘土質、白・黒色粒	堅緻	素地灰白色 釉調浅黄色	外面ロクロナデ成形。長石釉及び銅緑釉施釉。底部回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ成形。長石釉と若干の銅緑釉施釉。	2/5残存。
2	床面直上	瓦器　焙烙	34.5	31.3	5.3	白・黒・茶色粒	良好	黒褐色 灰黄褐色	外面ロクロナデ成形。体部中位に約3㎝間隔で一対の円孔。底部の円孔には銅線が2本残存。内面ロクロナデ成形。内耳部手捏ね及び指ナデ。	1/3残存。

D－19

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	鉄製品　鉄滓	6.4	7.3	3.7	－	－	－	150.1	椀着した石の自然面は、被熱による光沢が顕著。	完存。

ピット

No	出土位置	銭種名	初鋳年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量	残存状況・備考
1	P－12	元豊通寶	1078年	銅	24.28	6.58	1.52	3.4	完存。
2	P－48	元祐通寶	1086年	銅	24.59	5.96	1.63	2.8	完存。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 高台付皿	10.5	4.7	3.5	白・黒・茶色粒、水晶	良好	明黄褐色	外面ロクロナデ成形。底部回転糸切り後高台貼付。 内面ロクロナデ成形。	3/4残存。
2	覆土	かわらけ	8.5	5.0	2.3	白・黒・茶色粒	良好	橙色	外面ロクロナデ成形。底部ヘラ切り。内面ロクロナデ成形。	ほぼ完存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	内径	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	羽口	(9.8)	(6.6)	約3.0	白・黒・茶色粒	軟質	にぶい黄橙色	外面ヘラナデ及び指ナデ。 内面工具によるナデ及び指ナデ。	3/4残存。

Tab. 4　元総社蒼海遺跡群（44）、（45）土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表

元総社蒼海遺跡群（44）

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
ＤＢ－１	X94、Y170	0.82	(0.45)	0.12	〔楕円形〕
Ｉ－１	X93、Y166	1.16	1.15	(1.11)	円形
Ｄ－１	X92、Y158	0.83	0.72	0.29	円形
Ｄ－２	X92、Y158	(0.96)	(0.67)	0.24	〔方形〕
Ｄ－３	X92、Y161	0.69	0.63	0.39	方形
Ｄ－４	X92、Y160	2.35	1.44	1.13	不整形
Ｄ－５	X92、Y160	1.82	1.17	0.76	長方形
Ｄ－６	X91・92、Y160	1.44	1.27	0.48	長方形
Ｄ－７	X92、Y160	2.24	1.57	0.52	長方形
Ｄ－８	X92、Y160	(1.49)	(1.30)	0.58	〔円形〕
Ｄ－９	X92、Y160	1.51	0.75	0.46	不整形
Ｄ－10	X92、Y159	1.99	1.02	0.45	楕円形
Ｄ－11	X93, Y162.163	(1.30)	(1.13)	0.39	〔方形〕
Ｄ－12	X92, Y162	(1.51)	1.13	0.30	楕円形
Ｄ－13	X93、Y163・164	2.99	(2.20)	0.46	〔方形〕
Ｄ－14	X93、Y163	(1.74)	0.95	0.41	不整形
Ｄ－15	X93、Y163	(1.53)	1.32	0.38	〔長方形〕
Ｄ－16	X92、Y164・164	2.28	1.22	0.32	長楕円形
Ｄ－17	X92, Y160	(1.24)	1.18	0.55	〔楕円形〕
Ｄ－18	X93・94、Y168	0.99	0.93	0.11	方形
Ｄ－19	X93、Y169	1.34	0.57	0.13	長楕円形
Ｄ－20	X94、Y169	0.71	(0.55)	0.15	〔円形〕
Ｄ－21	X92・93、Y167	2.01	1.96	0.38	不整形
Ｄ－22	X93、Y166・167	1.40	(0.94)	0.29	〔長方形〕
Ｄ－23	X92・93、Y167	(1.26)	(1.06)	0.13	〔楕円形〕
Ｄ－24	X92・93、Y168	0.63	0.57	0.09	方形
Ｄ－25	X92、Y168	(0.80)	0.51	0.04	〔長楕円形〕
Ｄ－26	X92、Y166	(2.19)	1.54	0.27	不整形
Ｄ－27	X93・94、Y167	1.05	(0.96)	0.25	〔方形〕
Ｄ－28	X93・94、Y168	(0.66)	(0.56)	0.17	〔楕円形〕
Ｄ－29	X93・94、Y168	(1.25)	0.85	0.32	〔長楕円形〕
Ｄ－30	X92、Y167	1.81	(0.87)	0.36	〔楕円形〕
Ｄ－31	X92、Y165	1.90	(1.03)	0.22	長方形
Ｄ－32	X92、Y165	1.98	(1.45)	0.60	長方形
Ｄ－33	X92、Y165	(0.94)	(0.41)	0.19	〔楕円形〕
Ｄ－34	X92、Y166	(1.32)	(1.23)	0.41	〔楕円形〕
Ｄ－35	X92、Y166	(1.37)	1.08	0.38	〔楕円形〕
Ｄ－36	X92、Y165	1.16	(1.00)	0.53	〔楕円形〕
Ｄ－37	X93、Y166	1.29	(1.07)	0.21	不整形
Ｄ－38	X92、Y166	(0.95)	(0.68)	0.10	〔楕円形〕
Ｄ－39	X92、Y166	0.74	0.52	0.17	楕円形
Ｐ－１	X92、Y160	0.26	0.21	0.14	楕円形
Ｐ－２	X92、Y160	0.16	0.15	0.09	円形
Ｐ－３	X92、Y161	0.22	0.20	0.26	方形
Ｐ－４	X92、Y161	0.18	0.16	0.06	方形
Ｐ－５	X92、Y161	0.18	0.17	0.10	円形
Ｐ－６	X92、Y161	0.20	0.16	0.11	長方形
Ｐ－７	X92、Y161	0.21	0.14	0.20	長方形
Ｐ－８	X93、Y161	0.34	0.24	0.16	不整形
Ｐ－９	X92、Y160	0.27	0.25	0.09	円形
Ｐ－10	X92、Y161	0.19	0.16	0.09	方形
Ｐ－11	X91、Y159	0.43	0.38	0.17	円形
Ｐ－12	X92、Y159	0.33	0.27	0.12	方形
Ｐ－13	X91、Y160	0.36	0.33	0.16	円形
Ｐ－14	X92、Y161	0.30	0.27	0.25	円形
Ｐ－15	X92、Y161	0.58	0.55	0.08	円形
Ｐ－16	X92、Y161	0.57	0.43	0.10	長方形
Ｐ－17	X92、Y161	0.47	0.41	0.10	方形
Ｐ－18	X93、Y161	0.22	0.20	0.22	円形
Ｐ－19	X93、Y161	0.18	0.16	0.20	方形
Ｐ－20	X92、Y161	0.21	0.16	0.17	長方形
Ｐ－21	X93、Y161	0.30	0.22	0.23	長方形
Ｐ－22	X94、Y169	－	－	－	－
Ｐ－23	X93、Y168	0.49	(0.29)	0.07	長方形
Ｐ－24	X93、Y167	0.52	(0.33)	0.07	長方形
Ｐ－25	X93、Y171	0.27	0.25	0.11	円形
Ｐ－26	X93、Y171	0.49	0.45	0.15	円形
Ｐ－27	X93、Y171	0.64	0.58	0.15	方形
Ｐ－28	X93、Y171	0.27	0.24	0.14	円形
Ｐ－29	X93、Y171	0.33	0.32	0.09	円形
Ｐ－30	X93、Y171	0.24	(0.16)	0.07	円形
Ｐ－31	X93、Y172	0.27	0.23	0.11	円形
Ｐ－32	X94、Y171	0.26	0.19	0.20	楕円形

元総社蒼海遺跡群（45）

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
ＤＢ－１	X225・226、Y213	1.26	1.21	0.34	円形
Ｉ－１	X223、Y213	0.96	0.75	(0.94)	楕円形
Ｉ－２	X225、Y214	(1.03)	(0.26)	(1.19)	〔円形〕
Ｉ－３	X226、Y211	1.84	1.47	(1.09)	楕円形
Ｉ－４	X226、Y207	(0.53)	(0.18)	1.01	〔円形〕
Ｄ－１	X220・221、Y213	1.80	1.53	0.84	楕円形
Ｄ－２	X221、Y213	(0.83)	0.73	0.33	〔楕円形〕
Ｄ－３	X221、Y213・214	1.83	1.27	0.56	楕円形
Ｄ－４	X224、Y213	0.68	0.63	0.26	方形
Ｄ－５	X224、Y213	0.77	0.69	0.38	円形
Ｄ－６	X226、Y213	0.87	0.80	0.09	円形
Ｄ－７	X224、Y213	0.92	0.83	0.28	方形
Ｄ－８	X225、Y207・208	2.53	1.89	0.66	長方形
Ｄ－９	X225、Y208	1.52	1.31	0.75	方形
Ｄ－10	X224、Y208	(0.75)	(0.28)	0.23	〔長方形〕
Ｄ－11	X225、Y208・209	(1.61)	1.16	0.16	〔長方形〕
Ｄ－12	X225、Y210	0.96	0.59	0.24	長方形
Ｄ－13	X225、Y211	1.26	(1.02)	0.30	〔円形〕
Ｄ－14	X225・226、Y209	1.64	0.89	0.29	長方形
Ｄ－15	X225・226、Y209	1.40	1.09	0.39	方形
Ｄ－16	X226、Y208	(0.53)	0.52	0.24	〔方形〕
Ｄ－17	X226、Y207	(0.45)	(0.13)	0.11	〔楕円形〕
Ｄ－18	X226、Y208	(0.71)	(0.30)	0.24	不整形
Ｄ－19	X226、Y208	(0.89)	(0.23)	0.16	不整形
Ｄ－20	X226、Y209	(1.75)	(0.88)	0.36	〔円形〕
Ｄ－21	X226、Y208	(1.30)	(0.56)	0.28	〔楕円形〕
Ｐ－１	X221、Y213	0.54	0.46	0.61	円形
Ｐ－２	X223、Y214	0.24	0.22	0.60	方形
Ｐ－３	X221、Y213	0.43	0.39	0.79	方形
Ｐ－４	X223、Y213	0.26	0.25	0.44	方形
Ｐ－５	X222、Y214	0.26	0.25	0.56	方形
Ｐ－６	X222、Y214	0.33	0.26	0.42	方形
Ｐ－７	X222、Y214	0.33	0.29	0.13	方形
Ｐ－８	X222、Y214	0.45	0.29	0.46	長方形
Ｐ－９	X222、Y214	0.25	0.24	0.23	方形
Ｐ－10	X222、Y214	0.46	0.36	0.53	長方形
Ｐ－11	X222、Y213	0.46	0.37	0.04	円形
Ｐ－12	X222、Y213	0.37	0.32	0.48	方形
Ｐ－13	X222、Y213	0.49	0.40	0.39	円形
Ｐ－14	X223、Y213	0.33	0.33	0.44	方形
Ｐ－15	X223、Y213	0.25	0.24	0.28	方形
Ｐ－16	X223、Y213	0.43	0.43	0.73	円形
Ｐ－17	X223、Y214	0.26	0.24	0.48	方形
Ｐ－18	X223、Y214	0.24	0.21	0.16	方形
Ｐ－19	X225、Y213	0.40	0.34	0.55	方形
Ｐ－20	X225、Y213	0.32	0.28	0.36	方形
Ｐ－21	X225、Y213	0.31	0.29	0.11	方形
Ｐ－22	X225、Y213	0.41	0.37	0.62	方形
Ｐ－23	X225、Y213	0.37	0.27	0.26	楕円形
Ｐ－24	X225、Y213	0.27	0.23	0.14	方形
Ｐ－25	X225、Y213	0.33	0.27	0.46	円形
Ｐ－26	X222、Y213	0.26	0.23	0.33	方形
Ｐ－27	X222、Y213	0.31	0.27	0.58	方形
Ｐ－28	（欠番）				
Ｐ－29	X222、Y213	0.50	0.44	0.75	不整形
Ｐ－30	X222、Y213	0.17	0.17	0.45	方形
Ｐ－31	X222、Y213	0.24	0.23	0.34	方形
Ｐ－32	X223、Y214	0.27	0.25	0.21	円形
Ｐ－33	X221、Y214	0.25	0.22	0.23	円形
Ｐ－34	X221、Y214	0.36	0.27	0.23	楕円形
Ｐ－35	X221、Y213	0.23	0.22	0.20	円形
Ｐ－36	X222、Y213	(0.35)	0.27	0.20	方形
Ｐ－37	X222、Y213	0.53	0.43	0.14	円形
Ｐ－38	X222、Y213	0.25	0.21	0.43	方形
Ｐ－39	X222、Y213	0.22	0.21	0.27	方形
Ｐ－40	X222、Y213	0.17	0.13	0.17	方形
Ｐ－41	X222、Y214	0.31	0.31	0.51	円形
Ｐ－42	X222、Y214	0.25	0.25	0.14	円形
Ｐ－43	X223、Y214	0.36	0.30	0.49	方形
Ｐ－44	X222、Y214	0.37	(0.16)	0.56	方形
Ｐ－45	X223、Y213	0.24	0.24	0.32	方形
Ｐ－46	X223、Y213	0.30	0.30	0.28	長方形
Ｐ－47	X223、Y213	0.28	0.28	0.30	円形
Ｐ－48	X223、Y213	0.33	0.29	0.47	円形
Ｐ－49	X223、Y213	0.50	0.36	0.22	不整形
Ｐ－50	X223、Y213	0.34	0.22	0.31	長方形
Ｐ－51	X223、Y214	0.26	0.25	0.30	方形
Ｐ－52	X223、Y214	0.51	(0.30)	0.58	円形
Ｐ－53	X224、Y214	0.23	0.19	0.21	方形
Ｐ－54	X225、Y214	0.27	0.26	0.24	方形
Ｐ－55	X224、Y214	0.37	(0.07)	0.23	円形
Ｐ－56	X224、Y213	0.47	0.37	0.40	円形
Ｐ－57	X225、Y213	0.24	0.23	0.13	方形
Ｐ－58	X225、Y213	0.46	0.28	0.26	長方形
Ｐ－59	X225、Y213	0.26	0.24	0.29	方形
Ｐ－60	X225、Y213	0.25	0.23	0.26	方形
Ｐ－61	X225、Y213	0.22	0.21	0.23	方形
Ｐ－62	X225、Y213	0.18	0.18	0.13	円形
Ｐ－63	X225、Y213	0.18	0.15	0.05	方形
Ｐ－64	X225、Y213	2.21	0.18	0.18	方形
Ｐ－65	X225、Y213	0.22	0.19	0.14	円形
Ｐ－66	X225、Y213	2.30	0.21	0.40	長方形
Ｐ－67	X225、Y213	0.18	0.17	0.11	方形
Ｐ－68	X225、Y213	0.15	0.15	0.09	方形
Ｐ－69	X225、Y213	0.23	0.23	0.21	長方形
Ｐ－70	X225、Y213	0.44	0.40	0.46	円形
Ｐ－71	X225、Y213	0.24	0.23	0.20	方形
Ｐ－72	X226、Y213	0.17	0.12	0.10	方形
Ｐ－73	X226、Y213	0.18	0.17	0.26	方形
Ｐ－74	X226、Y213	0.20	0.19	0.12	円形
Ｐ－75	X226、Y213	0.23	0.22	0.28	円形
Ｐ－76	X226、Y213	0.18	0.18	0.11	方形
Ｐ－77	X225、Y213	0.21	0.20	0.08	円形
Ｐ－78	（欠番）				
Ｐ－79	X225、Y207	0.29	0.26	0.19	方形
Ｐ－80	X225、Y207	0.29	0.27	0.16	円形
Ｐ－81	X225、Y207	0.26	0.27	0.08	方形
Ｐ－82	X226、Y207	0.19	0.18	0.14	方形
Ｐ－83	X226、Y207	0.43	0.40	0.43	円形
Ｐ－84	X225、Y209	0.22	0.20	0.08	方形
Ｐ－85	X224、Y210	0.48	(0.29)	0.40	円形
Ｐ－86	X225、Y210	(0.29)	0.25	0.09	方形
Ｐ－87	X225、Y210	0.36	(0.21)	0.13	円形
Ｐ－88	X226、Y211	0.25	0.23	0.29	方形
Ｐ－89	X225、Y207	0.23	0.17	0.19	方形
Ｐ－90	X220、Y211	0.21	0.16	0.12	長方形
Ｐ－91	X221、Y211	0.25	0.21	0.21	方形
Ｐ－92	X221、Y211	0.23	0.18	0.11	長方形
Ｐ－93	X220・221、Y211	(0.39)	0.28	0.15	長方形
Ｐ－94	X220、Y211	0.35	0.26	0.20	長方形
Ｐ－95	X222、Y213	0.21	0.18	0.39	方形
Ｐ－96	X226、Y208	0.33	(0.23)	0.10	方形
Ｐ－97	X221、Y213	0.30	0.27	0.31	方形
Ｐ－98	X221、Y213	0.39	0.30	0.19	方形
Ｐ－99	X221、Y213	0.31	0.28	0.25	方形
Ｐ－100	X224、Y214	0.27	0.22	0.26	方形
Ｐ－101	X225、Y213	0.18	0.17	0.26	方形
Ｐ－102	X225、Y213	0.23	0.21	0.17	円形
Ｐ－103	X225、Y213	0.18	0.18	0.13	方形
Ｐ－104	X225、Y213	0.18	0.15	0.18	方形

Ⅵ　まとめ

今回の元総社蒼海遺跡群（44）、（45）の２次にわたる発掘調査において、竪穴住居跡５軒、溝 17 条（うち堀跡４条）、土坑墓２基、地下式坑１基、井戸５基、土坑・ピットを検出した。

ここでは調査ごとに成果を概観し、まとめとしたい。

１　元総社蒼海遺跡群（44）

竪穴住居跡３軒、溝７条、土坑墓１基、井戸１基、土坑・ピットを確認している。

竪穴住居跡はＨ－１号住居跡が出土遺物から９世紀後半から 10 世紀前半に位置づけられるものである。Ｈ－２・３号住居跡に関しては出土遺物が少ないため判然としないが、周囲の遺構との重複関係からＨ－２号住居跡が８世紀以降、Ｈ－３号住居跡が８世紀代に帰属するものと思われる。しかしながら、特にＨ－３号住居跡に関しては若干の平坦面と住居壁と思われる立ち上がりで住居跡と想定しているが、位置や残存状況等から後述する土坑群の一部になる可能性も十分に考えられる。

７条検出した溝については重複関係・出土遺物の傾向・覆土等から、Ｗ－１・２・４号溝が中世に、その他は近世に帰属するものである。特にＷ－１・２号溝は幅 2.5 ｍ以上、深さ２ｍ前後の断面Ｖ字状の薬研堀となる。その規模や形状から本調査区の南西に本丸の位置する蒼海城の堀跡の一部と考えられ、本調査区周辺の小見内Ｘ遺跡や元総社蒼海遺跡群（35）１区でも同様の遺構が検出されている。また、Ｗ－１号溝は調査区北東側でＬ字に南北方向へ折れるが、東西方向の溝を西へ延長すると小見内Ｘ遺跡で検出されている東西方向の溝に繋がるものと推察される。なお、Ｗ－１・２号溝が同一遺構かどうかは、調査区東側へ切れており判然としないため、今回の発掘調査では別遺構として扱っている。

次に、本調査では 39 基の土坑を確認している。これらの土坑については、Ｖ章でも述べたように調査区の北側と中央付近の２箇所での集中的な分布を看取できる（土坑群１・２）。この２箇所の土坑群は断面観察から、いずれの土坑も基本土層Ⅶおよび Ⅷ層の灰黄褐色粘質土まで掘り込んでいることが分かっており、この粘質土を目的とした粘土採掘坑である可能性が指摘される。平面形態や大きさは不均一なものであり、土坑同士の重複関係が不明瞭なものも多く見られ、短時間での乱雑的な掘削が想起されるものである。これらの土坑群と同様な遺構が元総社小見内Ｘ遺跡等の周辺遺跡でも確認されていることからも、本遺跡の土坑群が粘土採掘坑である蓋然性は高いものと思われる。また、単独で分布する土坑の中にも灰黄褐色粘質土まで掘り込んでいるものも存在しており、これらに関しても粘土採掘坑になる遺構も含んでいると思われる。今回の調査で検出した土坑群の時期は、出土遺物の傾向や重複関係等から８世紀前半頃に帰属するものと考えられる。

２　元総社蒼海遺跡群（45）

元総社蒼海遺跡群（45）では竪穴住居跡２軒、溝 10 条、土坑墓１基、地下式坑１基、井戸４基、土坑・ピットを検出した。

竪穴住居跡は２軒検出しているが、Ｈ－１号住居跡は上部および住居西側を後世の攪乱・削平により、Ｈ－２号住居跡は東半を調査区外で欠いているため、いずれも全容が明らかな住居跡ではない。各住居跡の時期については、出土遺物の傾向からＨ－１号住居跡が 10 世紀後半に帰属すると思われる。Ｈ－２号住居跡は「模倣坏」である土師器坏および長胴甕等の出土遺物から６世紀後半～７世紀前半の時期（古墳時代後期）に帰属するものと考えられる。また、本調査区の周辺では前橋市教育委員会による平成 24 年度上野国府等範囲内容確認調査においても住居群が確認されており、当時の集落域の展開が示唆される。

なお、Ｈ－２号住居跡の掘り方調査時に土坑を２基（Ｄ－ 20・21）、住居の床面下にて確認している。今回の調査では土坑としての遺構番号を付しているが、Ｈ－２号住居跡に伴う床下土坑になる可能性が高いものである。

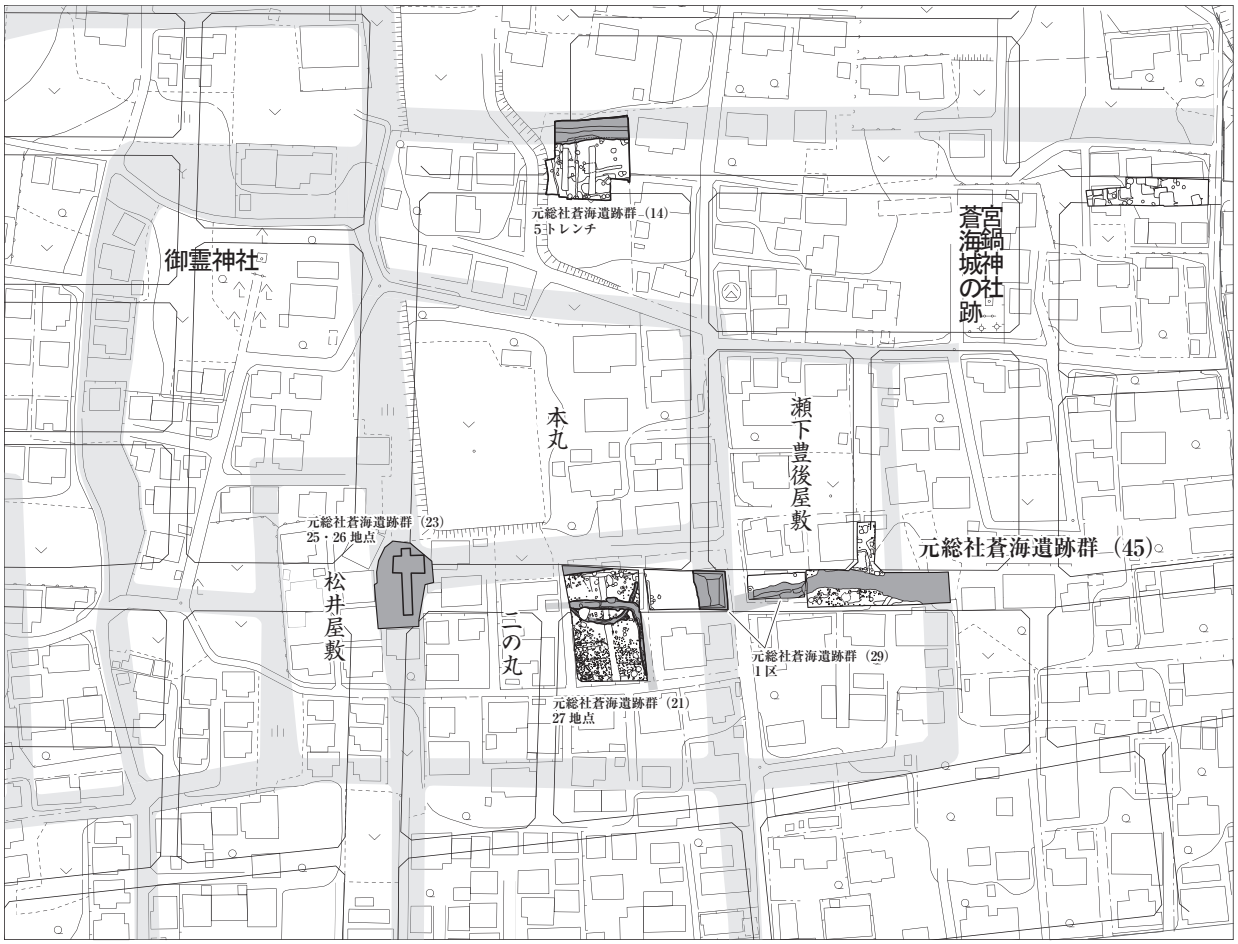


Fig.24　元総社蒼海遺跡群（45）周辺蒼海城想定図（神宮・佐野 2010 を一部加筆修）

溝は 10 条検出しており、W－１・10 号溝の２条の遺構については、その規模や形状から蒼海城に伴う堀跡である。W－１号溝は上幅５m以上で深さも２m近いもので箱堀の形態を示している。また、本遺構では特徴的な覆土の堆積が見られる。それは黒褐色粘質ブロックを含んだ非常に堅緻な暗褐色の覆土であり（W－１号溝・８～ 10 層）、この土は周辺に存在した土塁の土が埋没したものと推察さる。

W－ 10 号溝については先述したように、W－１号溝の先行掘削・北東隅での崩落の危険性があるため断面のみでの記録ではあるが、断面は台形状を呈し箱掘と思われる。本調査区北東側で前橋市教育委員会が実施した、平成 24 年度上野国府等範囲内容確認調査においても検出されており、北から南西に延びる堀である。これらの堀や存在を窺わせる土塁とあわせて、本調査区周辺は城としての区画性や防御性について十分な施設を有していたことが示唆される。なお、W－１・10 号溝はグリッドX 227・Y 212 付近で直交するが、土層断面の観察からW－ 10 号溝が後出することを確認しており、堀の造り替えをした様子を示しているものと思われる。

今回の発掘調査により検出したW－１･10 号溝に繋がる遺構が本調査区の西側の元総社蒼海遺跡群（29）１区、北側の前橋市教育委員会による平成 24 年度上野国府等範囲内容確認調査でも確認されており、周辺遺跡でもこれまでの発掘調査により、蒼海城に伴う堀跡が数多く検出されている。これらの遺構を総社資料館に所蔵されている「蒼海城絵図」と山崎一氏が作成した縄張図を参考にすると（Fig.24）、位置的にW－ 10 号溝は瀬下豊後屋敷東側を区画する堀跡になるものと思われる。しかしながら「蒼海城絵図」、山崎氏の縄張図ともにW－１号溝にあたる堀跡は見られず、遺構の重複関係からW－１号溝が埋まった後の様子を描写している可能性を指摘しておきたい。

また、今回の発掘調査でW－１号溝南側を中心に 100 基近いピットを検出しており、これらの中には瀬下豊後屋敷内に構築された掘立柱建物跡の柱穴になり得るものも多く存在するものと推測される。

元総社周辺は上野国府が存在した場所であり、古代群馬の中心地として知られる。元総社蒼海遺跡群では周辺遺跡を含め、近年継続的な発掘調査が実施されており、多様な遺構・遺物が確認されている。今回の発掘調査においては上野国府に直接関連する遺構等は確認し得なかったが、古墳時代～中・近世にわたる遺構・遺物を検出した。今後も継続して実施される元総社蒼海遺跡群の発掘調査により、上野国府や蒼海城、さらに周辺遺跡との関連性が明らかになっていくことが期待される。

最後に連日の猛暑の中、現地での発掘調査に従事した作業員の方々、現地調査や報告書作成に際して御指導、御協力頂いた方々に感謝の意を表したい。

〈参考文献〉

山崎　一　1978　『群馬県古城塁址の研究　上巻』　群馬県文化事業振興会
中世土器研究会編　1995　『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社
山下歳信・和久拓照・小出拓磨・日沖剛史　2009　『元総社蒼海遺跡群（21）』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
神宮　聡・小出拓磨・山本千春・柴田洋考・日沖剛史　2010　『元総社蒼海遺跡群（28）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団
神宮　聡・山田誠司　2010　『元総社蒼海遺跡群（29）』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
神宮　聡・佐野良平　2010　『元総社蒼海遺跡群（31）』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
神宮　聡・瀬田哲夫　2011　『元総社蒼海遺跡群（34）』　前橋市教育委員会
神宮　聡・佐野良平　2011　『元総社蒼海遺跡群（35）』　前橋市教育委員会
神宮　聡・荻野博巳・金子正人　2011　『元総社蒼海遺跡群（36）』　前橋市教育委員会

（44）Ｈ－１号住居跡・Ｗ－４号溝　全景（西から）

（44）Ｈ－１号住居跡　竈全景（西から）

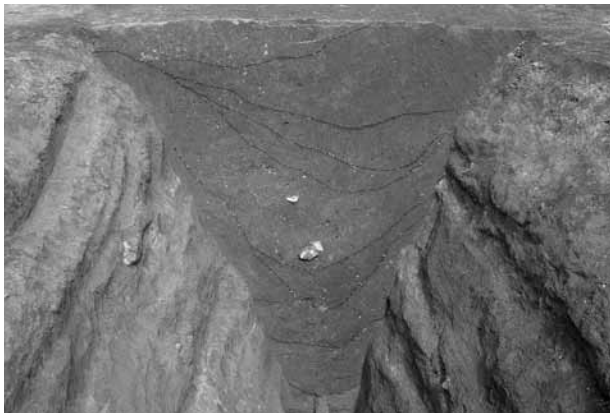
（44）Ｈ－１号住居跡　遺物検出状況（西から）

（44）Ｈ－２号住居跡　全景（西から）

（44）Ｗ－１号溝　全景（西から）

（44）Ｗ－１号溝　ＳＰＡ－Ａ’（東から）

（44）Ｗ－１号溝　ＳＰＡ－Ａ’（東から）

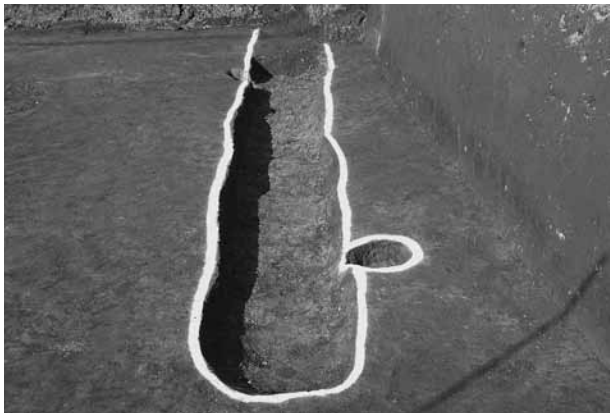


（44）Ｗ－２号溝　ＳＰＡ－Ａ’（南から）

（44）Ｗ－３号溝・Ｄ－２号土坑　全景（西から）

（44）Ｗ－４号溝　全景（西から）

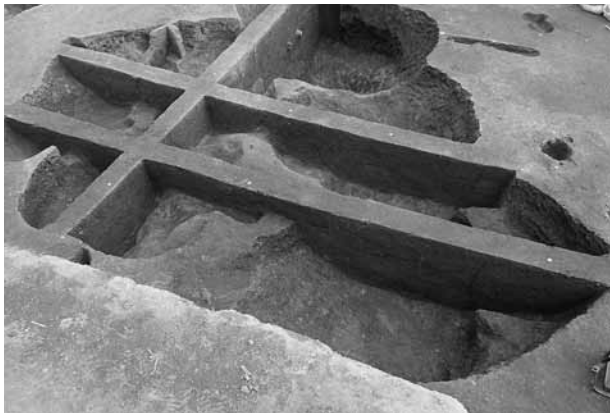
（44）Ｗ－５号溝　全景（南から）



（44）Ｗ－６号溝　全景（南から）

（44）ＤＢ－１号土坑墓　全景（南から）

（44）ＤＢ－１号土坑墓　人骨・古銭検出状況（南から）



（44）土坑群１（西から）

（44）土坑群２（西から）

（45）Ｈ－１号住居跡　全景（西から）

（45）Ｈ－１号住居跡　竈全景（西から）

（45）Ｈ－１号住居跡　竈周辺遺物検出状況（西から）

（45）Ｈ－１号住居跡　貯蔵穴遺物検出状況（西から）

（45）Ｈ－２号住居跡　全景（西から）

（45）Ｈ－２号住居跡　遺物検出状況（西から）

（45）Ｗ－１号溝　全景（西から）

（45）Ｗ－４号溝　全景（東から）

（45）Ｗ－５号溝　全景（南から）

（45）Ｗ－６号溝　全景（西から）

（45）Ｗ－７号溝　全景（北から）

（45）Ｗ－８号溝　全景（東から）

（45）Ｗ－９号溝　全景（西から）

（45）Ｗ－10号溝　全景（南から）

（45）ＤＢ－１号土坑墓　全景（南から）

（45）地下式坑　ＳＰＡ－Ａ’（南から）

（45）Ｉ－３号井戸　全景（南から）

（45）Ｄ－１・２号土坑　全景（南から）

（45）Ｄ－１号土坑　礫検出状況（南から）

（45）Ｄ－３号土坑　全景（南から）

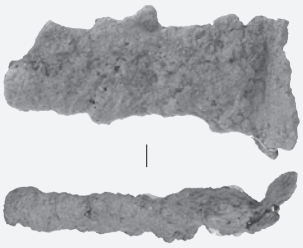
（45）Ｄ－３号土坑　遺物検出状況（南から）

（45）調査区南側ピット全景（東から）

調査風景

調査風景

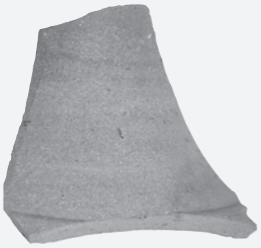
元総社蒼海遺跡群（44）


H－1－5

W－2－2

D－1－1（1／6）

D－4－1


D－7－1（1／4）

D－21－1

D－21－2

D－23－1

D－34－1（1／4）

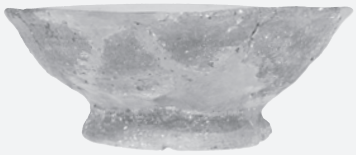
D－34－2

D－34－3

元総社蒼海遺跡群（45）

H－1－1

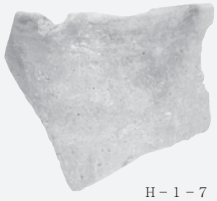
H－1－2


H－1－3

H－1－4

H－1－5

H－1－6

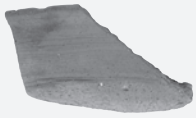

H－1－7（1／4）

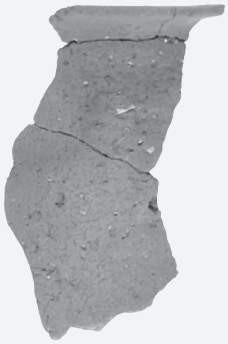
H－2－1

H－2－2

H－2－3

H－2－4


H－2－5



H－2－6（1／4）

H－2－7（1／4）

W－1－1

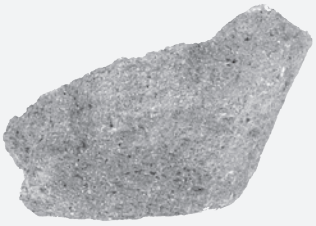
W－1－2（1／4）

W－1－3

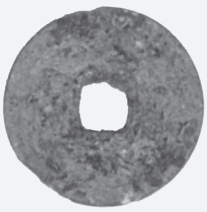
W－2－1

W－2－2（1／4）

W－2－3（1／4）



地下式坑－1（1／4）



DB－1－1（1／1）

W－10－1（1／4）

I－3－2（1／4）

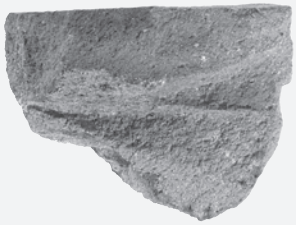
DB－1－2（1／2）

DB－1－3（1／2）

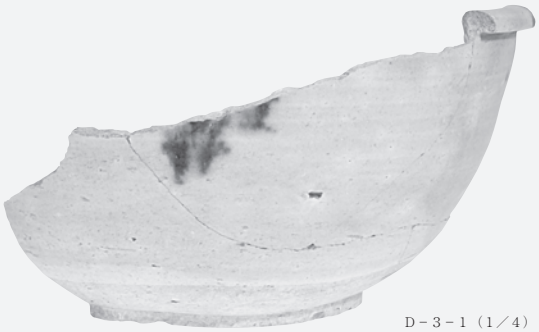
I－3－1

D－1－1（1／4）

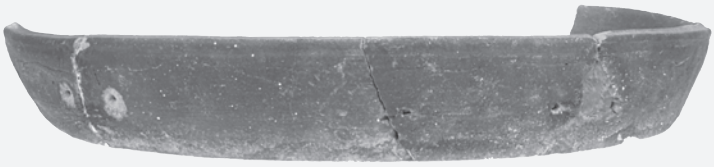
D－1－2（1／4）



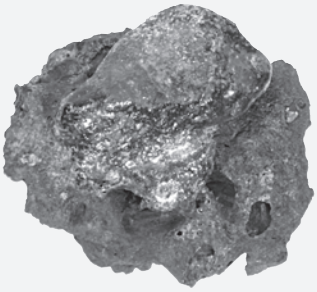
D－1－3（1／4）



D－3－1（1／4）

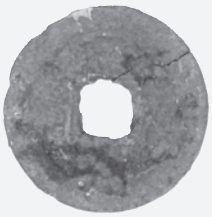


D－3－2（1／4）



D－19－1（1／2）

P－12－1（1／1）



P－48－1（1／1）

遺構外－1

遺構外－2

遺構外－3

報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン（44）、（45）
書名	元総社蒼海遺跡群（44）、（45）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	福田貫之・山田誠司
編集機関	技研測量設計株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１-15-３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２
発行年月日	2013年３月22日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャ オ ウミ イ セキグン 元総社蒼海遺跡群 （44）	マエバシ シ モトソウジャマチ 前橋市元総社町 1582-3	102021	24A130-44	36°23'16	139°1'57	20120926 ～ 20121031	320㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
モトソウジャ オ ウミ イ セキグン 元総社蒼海遺跡群 （45）	マエバシ シ モトソウジャマチ 前橋市元総社町 2115-1、2115-2 2114、2108-1	102021	24A130-45	36°23'10	139°2'18	20120820 ～ 20120930	660㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 （44）	集落跡 城館跡 その他	平安時代 中・近世	竪穴住居跡　３軒 溝　５条 堀跡　２条 土坑墓　１基 井戸　１基 土坑・ピット	須恵器 土師器 灰釉陶器 かわらけ 石製品 鉄製品 古銭	・平安時代の集落。 ・奈良時代の粘土採掘坑。 ・蒼海城の堀跡。
元総社蒼海遺跡群 （45）	集落跡 城館跡	古墳時代 平安時代 中・近世	竪穴住居跡　２軒 溝　８条 堀跡　２条 土坑墓　１基 地下式坑　１基 井戸　４基 土坑・ピット	須恵器 土師器 灰釉陶器 かわらけ 石製品 鉄製品 古銭	・古墳時代、平安時代の集落。 ・蒼海城の堀跡。

元総社蒼海遺跡群（44）
元総社蒼海遺跡群（45）
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013年３月17日　印刷
2013年３月22日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371－0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２
TEL　027-231-9531

編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社